

(11)Publication number : 10-240817
(43)Date of publication of application : 11.09.1998

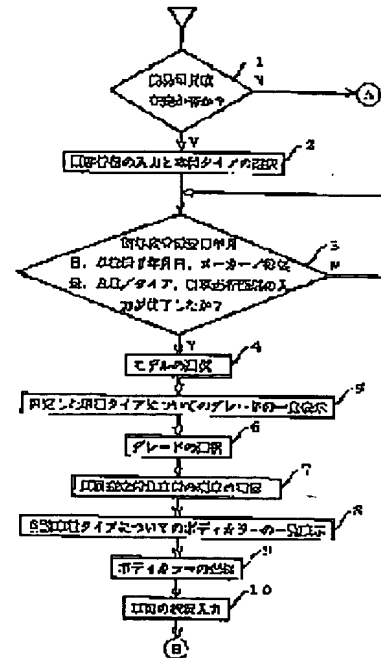
G06F 17/60

(71)Applicant : INO RYOICHI

(72)Inventor : INO RYOICHI

(57)Abstract:

SOLUTION: In an purchase assessing department, the first year registration data, automobile inspection expiration data, manufacturing maker, displacement, automobile kind type and mission of an automobile being the object of purchase assessment are specified, and the situation of a meter, the total traveling distance of the automobile being the object of purchase assessment, the sales period of the objective automobile, the selection of the grade, the selection of a body color, and the vehicle situation of the objective automobile are inputted, and the total evaluation scores are specified. In a purchase assessment deciding department, the purchase basic prices of the present type of year of the automobile being the object of purchase assessment is specified, and a correcting operation is performed based on an added and subtracted sum per 1km based on a difference between the present traveling distance and the standard traveling distance of the same kind of automobile as the objective automobile until the present time and an added sum per 1 month of the residual automobile inspection period of the objective automobile.



[Date of request for examination]
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-240817

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月11日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

T

D

審査請求 未請求 請求項の数14 O L (全 44 頁)

(21) 出願番号 特願平9-43568

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月27日

(71) 出願人 393031243

伊野 良一

東京都杉並区方南2丁目4番7号

(72) 発明者 伊野 良一

東京都杉並区成田東1丁目25番8号

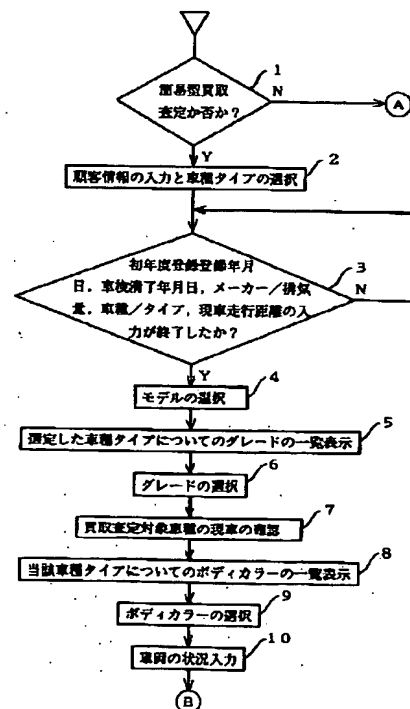
(74) 代理人 弁理士 大塚 明博 (外1名)

(54) 【発明の名称】 中古車の買取査定処理方法、及び中古車の買取査定処理装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握することにより、簡単に査定できるようにする。

【解決手段】 買取査定部署において、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、製造メーカー、排気量、車種タイプとミッションを特定し、メーカーの状況及び当該査定対象車の総走行距離、当該買取査定対象車の発売期間、グレードの選定、ボディカラーの選定、当該買取査定対象車の車両状況を入力すると共に総合評価点を特定し、買取保証額決定部署において、当該対象車の現在の年式の買取基本価格を特定し、前記買取基本価格に現在の走行距離と該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づく1km当りの加減算額と該対象車の残存車検期間の1月当りの加算額に基づいて修正演算する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 買取査定部署において、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、製造メーカー、排気量、車種タイプ、ミッション、メーターの状況、総走行距離のそれぞれの特定を行うと共に、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間中のから当該買取査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレード中からの当該買取査定対象車のグレードの選定、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定し、当該買取査定対象車の車輛状況を入力すると共に当該買取査定対象車の総合評価点を特定し、前記買取査定対象車の車輛現況を買取保証額決定部署に送信し、買取保証額決定部署において、買取査定部署から送信されてきた当該買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定され、予め記憶されている年式によって設定された買取基本価格の中から、当該買取査定対象車の現在の年式の買取基本価格を特定し、前記買取基本価格に前記買取査定対象車の現在の走行距離と該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算し、前記買取保証価格の演算結果を買取査定部署に返信し、前記買取査定部署に返信した買取保証価格を買取査定額としてなる中古車の買取査定の処理方法。

【請求項2】 買取査定部署において、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、製造メーカー、排気量、車種タイプ、ミッション、メーターの状況、総走行距離のそれぞれの特定を行うと共に、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間中のから当該買取査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレード中からの当該買取査定対象車のグレードの選定、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されている複数のボディカラー中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定し、前記買取査定対象車の車輛現況を買取保証額決定部署に送信して現車の情報確認を行い、買取査定部署において予め設定されている前記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額を求め、買取保証額決定部署に送信し、買取保証額決定部署において、買取査定部署から

送信されてきた当該買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額と、前記買取査定対象車の現在の走行距離と該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額とを加算すると共に前記買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算し、前記買取保証価格の演算結果を買取査定部署に返信し、前記買取査定部署において前記買取保証価格を確定買取査定額としてなる中古車の買取査定の処理方法。

【請求項3】 上記外装の現況は、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかである請求項1又は2に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項4】 上記内装の現況は、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかである請求項1、2又は3に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項5】 上記電装品の現況は、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウィンドウ左前の使用の可否、パワーウィンドウ左後の使用の可否、パワーウィンドウ右前の使用の可否、パワーウィンドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれかである請求項1、2、3又は4に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項6】 上記機関・足回りの現況は、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかである請求項1、2、3、4又は5に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項7】 上記買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額は、買取査定部署において算定が不明な場合に、買取保証額決定部署に問合せられるようにしたものである請求項1、2、3、4、5又は6に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項8】 上記買取査定対象車の外装の現況において、軽度の修復歴有りを2点とし、中度の修復歴有りを3点として、合計が6点を越えたときに重度の現状事故車と判定する請求項1、2、3、4、5、6又は7に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項9】 上記買取査定対象車の外装の現況において、軽度の現状事故箇所を2点とし、中度の現状事故箇所

所を3点として、合計が6点を越えたときに重度の現状事故車と判定する請求項1, 2, 3, 4, 5, 6又は7に記載の中古車の買取査定処理方法。

【請求項10】 上記買取査定対象車の外装の現況において、重度の修復歴有り、又は重度の現状事故車の場合は、査定不可とするものである請求項1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8又は9に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項11】 上記買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況についての現況加減算額のいずれかを入力しない場合には、前記現況加減算額を考慮しない暫定査定を行うようにしたものである請求項1, 2, 3, 4, 5, 6又は7に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項12】 上記買取査定対象車について他店舗での査定実績がある場合は、当該買取査定対象車についての前回の査定内容を買取査定額とできるようにしたものである請求項1, 2, 3, 4, 5, 6又は7に記載の中古車の買取査定の処理方法。

【請求項13】 通信手段によって互いにデータの授受を可能に構成された買取査定部署と買取保証額決定部署とを備え、買取査定部署には；予め記憶されている多数の製造メーカーの中から買取査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から買取査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、買取査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した買取査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から買取査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該買取査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、当該買取査定対象車の車輛状況を入力する車輛状況入力手段と、当該買取査定対象車の総合評価点を特定する総合評価点特定手段と、前記買取査定対象車の諸データを前記買取保証額決定部署に送信する送信手段と、を備え、前記買取保証額決定部署には；前記買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基

づいて選定された新車価格を基に年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本価格に前記総合評価点特定手段によって設定された当該買取査定対象車の総合評価点によって修正した当該査定対象車の基本査定価格を演算する基本査定価格演算手段と、前記基本査定価格演算手段によって演算された前記買取査定対象車の基本査定価格に、該買取査定対象車と同一の車種タイプが当該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算する買取保証価格演算手段と、前記買取保証価格演算手段で演算した買取保証価格を前記買取査定部署に送信する送信手段と、を備え、買取保証額決定部署から送信された買取保証価格を買取査定額として決定するようにしたことを特徴とする中古車の買取査定の処理装置。

【請求項14】 通信手段によって互いにデータの授受を可能に構成された買取査定部署と買取保証額決定部署とを備え、買取査定部署には；予め記憶されている多数の製造メーカーの中から買取査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から買取査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、買取査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した買取査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から買取査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該買取査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車についての外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額を特定する現況加減算額特定手段と、前記買取査定対象車の諸データを前記買取保証額決定部署に送信する送信手段と、を備え、前記買取保証額決定部署には；前記買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された新車価格を基に年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている

複数の基本価格の中から当該査定対象車の年式における基本査定価格を選定する基本査定価格選定手段と、前記査定対象車についての外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に応じて決定する現況加減算額を特定する現況加減算額特定手段と、前記基本査定価格選定手段によって選定された前記買取査定対象車の基本査定価格に、前記現況加減算額特定手段によって特定された現況加減算額を加算し、前記買取査定対象車と同一の車種タイプが当該買取査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に、当該買取査定対象車に車検の期間が残存する場合に車検残1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定買取査定価格を確定する確定買取査定価格演算手段と、前記買取保証価格演算手段で演算した買取保証価格を前記買取査定部署に送信する送信手段と、を備え、買取保証額決定部署から送信された買取保証価格を確定買取査定額とするようにしたことを特徴とする中古車の買取査定の処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、業者が中古車を買取取る際に中古車の評価額を決定する買取査定の処理方法及び装置に関する。

【0002】

【従来の技術】経済事情の変化に伴い自動車産業は拡大し、それに伴い中古車市場も肥大化している。このような状況下において、中古車業者は、中古車を売買することによって利益を得るものであるから中古車をより安く仕入れ、より高く販売しようとする。一方、車を手放す者は、自己の車をより高く売ることが望んでいる。このように中古車業者と需要者とは、利害が相反する要素を持っており、時として中古車の評価が適正に行われないことがあり、互いの信頼関係が損ねられる結果が生じている。これは従来、中古車の売買を行うに当たって売買対象の中古車を適正に評価する基準がなく、中古車を買取取る側である中古車業者（ディーラー）の勘で査定が行われていた。このため、同じ中古車であっても中古車業者（ディーラー）によって買取価格に大きな差が生じることがしばしば起こる。そこで、中古車市場が大きくなった今日、中古車業者及び需要者の双方が、両者の信頼関係に立った中古車の評価査定基準に基づいて中古車が適正な価額で売買されることを強く望むようになってきた。このため、種々なる条件を基礎として設定された中古車の基準となる価額をメーカー別、車種タイプ別、グレード別に表にした冊子が業者向けに発行され、また需要者向けとして各種自動車関係雑誌等に掲載されている。かかる中古車価額の設定は、年式、仕様、グレードの他にその時の人気度合いをも基礎として冊子から

探し出すようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような冊子は、中古車業者（ディーラー）が一般ユーザーから中古車を引き取る際の買取査定価格を決定するときに用いるものである。このため、この冊子では、メーカー毎、車種タイプ毎、年式毎、仕様毎、グレード毎、ボディーカラー毎に分類されて価格が設定されている。そこで、一般ユーザーが自己の車（中古車）を売るために持ち込んだ場合、中古車業者は、一般ユーザーから持ち込まれた買取査定対象車について、メーカー名、車種、タイプ、年式、仕様、グレード、ボディーカラーを中古車業者自らが特定し、この冊子に纏められている表の中から特定した中古車に該当する車種の基本査定価格（車を単なる物品として算出した新車価格からの残存価値価格）を選び出して決定し、現時点の当該車種の人気の度合い、走行距離の相違、各種部品の傷み具合等による査定者（中古車業者）の特別加減算額を加味して、当該査定対象車の最終買取査定価格を決定していた。

【0004】この冊子は、掲載されている自動車のメーカー数が多数に及び、各メーカーにおける車種数、その各車種におけるタイプ数、その各タイプにおける発売年式の数、その各発売年式におけるグレード数、さらに、その各グレードにおけるボディーカラーの数も多岐に亘り、それに伴って査定する際の査定項目が多くなっている。しかし、この冊子は、中古車業者（ディーラー）向けに作成されており、中古車業者が初めて使用する場合（初心者）であっても分かりやすく作製されている。そして、この冊子では、細かく査定内容が決められており、これらの細かな査定内容を間違いなく特定していくことによって、初心者にも時間を掛ければ正確な査定額を算出することができるようになっている。ところが、この冊子は、買取査定の初心者にも正確な買取査定額の算出ができるように、また、中古車業者（ディーラー）の誰が買取査定しても適正な買取査定額を算出することができるようにするため、査定項目が多く細かく表示されており、冊子を見るとき相当注意しないと間違った箇所（段を間違える等）を見てしまったら、冊子に記載されている金額を移し間違えたりすることがある。このように、冊子の表の見間違い、転記ミスをしたりすると中古車の買取評価額を正しく査定することができず、標準買取査定より高く査定したり、標準買取査定より低く査定したりして、査定対象車の中古車価格の買取査定額が正確に算出されないことがある。

【0005】本発明の第1の目的は、買取査定者の中古車の買取査定の経験がない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を簡易な買取保証額とし

て簡単に査定できるようにすることにある。

【0006】本発明の第2の目的は、買取査定者に中古車の買取査定の経験がない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定できるようにすることにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載の中古車の買取査定の処理方法は、買取査定部署において、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、製造メーカー、排気量、車種タイプ、ミッション、メーターの状況、総走行距離のそれぞれの特定を行うと共に、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間中のから当該買取査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレード中からの当該買取査定対象車のグレードの選定、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定し、当該買取査定対象車の車輛状況を入力すると共に当該買取査定対象車の総合評価点を特定し、前記買取査定対象車の車輛現況を買取保証額決定部署に送信し、買取保証額決定部署において、買取査定部署から送信されてきた当該買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定され、予め記憶されている年式によって設定された買取基本価格の中から、当該買取査定対象車の現在の年式の買取基本価格を特定し、前記買取基本価格に前記買取査定対象車の現在の走行距離と該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算し、前記買取保証価格の演算結果を買取査定部署に返信し、前記買取査定部署に返信した買取保証価格を買取査定額として処理するようにしたものである。このように構成することにより、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を簡易な買取保証額として簡単に査定することができる。

【0008】本願請求項2に記載の中古車の買取査定の処理方法は、買取査定部署において、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、製造メーカー、排

気量、車種タイプ、ミッション、メーターの状況、総走行距離のそれぞれの特定を行うと共に、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間中のから当該買取査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレード中からの当該買取査定対象車のグレードの選定、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されている複数のボディカラー中のから当該買取査定対象車のボディカラーを選定し、前記買取査定対象車の車輛現況を買取保証額決定部署に送信して現車の情報確認を行い、買取査定部署において予め設定されている前記査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する加減算額を求め、買取保証額決定部署に送信し、買取保証額決定部署において、買取査定部署から送信されてきた当該買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額と、前記買取査定対象車の現在の走行距離と該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額とを加算すると共に前記買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算し、前記買取保証価格の演算結果を買取査定部署に返信し、前記買取査定部署において前記買取保証価格を確定買取査定額として処理するようにしたものである。このように構成することにより、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【0009】本願請求項3に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記外装の現況を、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかにしたものである。このように構成することによって、外装の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0010】本願請求項4に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記内装の現況を、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかにしたものである。このように構成することによって、内装の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0011】本願請求項5に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記電装品の現況を、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウィンドウ左前の使用の可否、パワーウィンドウ左後の使用の可否、パワーウィンドウ右前の使用の可否、パワーウィンドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれかにしたものである。このように構成することによって、電装品の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に算出することができる。

【0012】本願請求項6に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記機関・足回りの現況を、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかにしたものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な買取査定価格を誰にでも算出することができる。

【0013】本願請求項7に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額を、買取査定部署において算定が不明な場合に、買取保証額決定部署に問合せられるようにしたものである。このように構成することにより、買取査定部署において現況加減算額が不明な場合であっても、現況加減算額を加味しないで買取査定を行うようなことがなく、現況加減算額をディーラーの買取査定価格に適正に反映させられ、適正な買取査定価格を容易に算出することができる。

【0014】本願請求項8に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車の外装の現況において、軽度の修復歴有りを2点とし、中度の修復歴有りを3点として、合計が6点を越えたときに重度の現状事故車と判定するようにしたものである。このように構成することにより、軽度の修復歴、中度の修復歴の箇所多少によって重度の修復歴と同等の重み付けをすることができ、修復歴の軽重による中古車の良否の程度を中古車に適正に反映でき、中古車の適正な買取査定価格を算出することができる。

【0015】本願請求項9に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車の外装の現況において、軽度の現状事故箇所を2点とし、中度の現状事故箇所を3点として、合計が6点を越えたときに重度の現状事故車と判定するようにしたものである。このように構成することにより、軽度の現状事故箇所、中度の現状事故箇所の多少によって重度の現状事故車と同等の重み付

けをすることができ、事故の軽重による中古車の良否の程度を中古車に適正に反映でき、中古車の適正な買取査定価格を算出することができる。

【0016】本願請求項10に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車の外装の現況において、重度の修復歴有り、又は重度の現状事故車の場合には、査定不可とするようにしたものである。このように構成することにより、重度の修復歴の有る中古車、又は現状が重度の事故車であるような不良な車を誤って買取ることがないようにすることができる。

【0017】本願請求項11に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車の外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況についての現況加減算額のいずれかを入力しない場合には、前記現況加減算額を考慮しない暫定査定を行うようにしたものである。このように構成することにより、詳細な査定情報の入力が行われない場合に暫定的な買取査定を行うことができる。

【0018】本願請求項12に記載の中古車の買取査定の処理方法は、上記買取査定対象車について他店舗での査定実績がある場合は、当該買取査定対象車についての前回の査定内容を買取査定額とできるようにしたものである。このように構成することにより、二重に買取査定を繰り返すことなく、前回の査定内容を最終買取査定額とすることができる。

【0019】本願請求項13に記載の中古車の買取査定の処理装置は、通信手段によって互いにデータの授受を可能に構成された買取査定部署と買取保証額決定部署とを備え、買取査定部署には；予め記憶されている多数の製造メーカーの中から買取査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から買取査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、買取査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した買取査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から買取査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該買取査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査

定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、当該買取査定対象車の車輛状況を入力する車輛状況入力手段と、当該買取査定対象車の総合評価点を特定する総合評価点特定手段と、前記買取査定対象車の諸データを前記買取保証額決定部署に送信する送信手段と、を備え、前記買取保証額決定部署には；前記買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された新車価格を基に年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本価格に前記総合評価点特定手段によって設定された当該買取査定対象車の総合評価点によって修正した当該査定対象車の基本査定価格を演算する基本査定価格演算手段と、前記基本査定価格演算手段によって演算された前記買取査定対象車の基本査定価格に、該買取査定対象車と同一の車種タイプが当該買取査定対象車と同一車種の現在までの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に該買取査定対象車に現在残存する車検の期間の1月当りの加算額に基づいた車検残存期間加算額を加算して買取保証価格を演算する買取保証価格演算手段と、前記買取保証価格演算手段で演算した買取保証価格を前記買取査定部署に送信する送信手段と、を備え、買取保証額決定部署から送信された買取保証価格を買取査定額として決定するようにしたものである。このように構成することにより、買取査定者の中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を簡易な買取保証額として簡単に査定することができる。

【0020】本願請求項14に記載の中古車の買取査定の処理装置は、通信手段によって互いにデータの授受を可能に構成された買取査定部署と買取保証額決定部署とを備え、買取査定部署には；予め記憶されている多数の製造メーカーの中から買取査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、買取査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から買取査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、買取査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した買取査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から買取査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該買取査定対象車と同一モデルの車種の

1又は2以上の発売期間の中から当該買取査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該買取査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車についての外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に対する現況加減算額を特定する現況加減算額特定手段と、前記買取査定対象車の諸データを前記買取保証額決定部署に送信する送信手段と、を備え、前記買取保証額決定部署には；前記買取査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された新車価格を基に年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本価格の中から当該査定対象車の年式における基本査定価格を選定する基本査定価格選定手段と、前記査定対象車についての外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況、装備品の現況に応じて決定する現況加減算額を特定する現況加減算額特定手段と、前記基本査定価格選定手段によって選定された前記買取査定対象車の基本査定価格に、前記現況加減算額特定手段によって特定された現況加減算額を加算し、前記買取査定対象車と同一の車種タイプが当該買取査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に、当該買取査定対象車に車検の期間が残存する場合に車検残1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定買取査定価格を確定する確定買取査定価格演算手段と、前記買取保証価格演算手段で演算した買取保証価格を前記買取査定部署に送信する送信手段と、を備え、買取保証額決定部署から送信された買取保証価格を確定買取査定額とするようにしたものである。このように構成することにより、買取査定者の中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【0021】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る実施の形態について説明する。図1～図41には、本発明に係る中古車の買取査定の処理方法及び中古車の買取査定の処理装置の一実施の形態が示されている。この中古車の買取査定の処理方法及び中古車の買取査定の処理装置は、中古車業者（ディーラー）がユーザーの現在使用している車を買取る際の中古車の評価査定を適正に行おうというものである。本発明に係る中古車の買取査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図1～図10には、本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の

一実施の形態を示す処理フローチャートが示されている。

【0022】図において、処理フローチャートがスタートすると、まず、ステップ1において、買取査定部署（支店）では、ユーザーが依頼した現車の買取査定について簡易型の買取査定で行うか否かの判定を行う。買取査定には、簡易型と詳細型があり、簡易型の買取査定は、現車（買取査定対象車）の現況のデータを最小限用いて、現車の全体の評価を決めて、この総合評価に基づいて買取査定を行う手法である。ステップ1において簡易型の買取査定を行うと判定すると、ステップ2において、査定対象車（現車）の買取査定を依頼してきた顧客者の顧客情報の入力と車種タイプの選定を図11に示す如く行う。顧客情報には、現車の買取査定を依頼してきた顧客者の氏名、住所・電話番号がある。顧客者の氏名は、業者（ディーラー）に現車の買取査定を依頼した人の氏名（例えば、日本太郎）で、住所・電話番号は、業者（ディーラー）に現車の買取査定を依頼した人の住所（例えば、東京都港区広尾1-3-25）と電話番号（03-3897-2465）で、顧客を特定するためと、顧客リストを作成する際に整理するために役立てる。

【0023】また、現車の車種タイプの選定を行うための現車の必要情報の入力を行う。現車の車種タイプの選定のための現車情報には、初年度登録年月日、登録番号、車検満了年月日、台車番号、メーカー／排気量、車種／タイプ、現車走行距離がある。これらの特定を行うことにより初めて買取査定を行うことができる。必要に応じてミッション、A/C有無、S/R有無、メーター状況、さらには、査定する業者の情報として査定担当者の入力項目がある。初年度登録年月日は、新車で購入したときに陸運局（関東地方であれば、関東陸運局）に登録した日付で、例えば、平成7年12月8日などである。この初年度登録年月日は、年式を決定する上で重要な事項で、初年度登録年月日が、例えば、平成7年12月8日であれば、現車の年式は、平成7年1月～平成7年12月に発売された車ということになる。

【0024】登録番号は、陸運局に登録した番号で、ナンバープレートに表示する番号で、例えば、練馬-33-は-8304などである。車検満了年月日は、実際に車検が満了する日で、現車が初年度登録年月日から3年未満であれば、初年度登録年の3年後の応答日の前日、すなわち、例えば、初年度登録年月日が平成7年12月8日であれば、車検満了年月日は平成10年12月7日ということになる。2回目以降の車検の場合は、2年車検であるので初年度登録年月日から5年目、7年目ということになる。車台番号は、自動車毎につけられた番号で、例えば、88888である。メーカー／排気量は、台車番号が入力されると、予め記憶されている複数のメーカー名（対象とする全メーカー、トヨタ、ニッサン、

ホンダ、ベンツ、BMW等）が表示され、この中から現車に該当するメーカー名を選択できるようになっている。表示されたメーカー名の中から現車に該当するメーカー名、例えば、トヨタを選択すると、現車の排気量が入力可能になる。現車の排気量を例えば、3000CCと入力すると、当該メーカーから発売されている車種／タイプの選択に入る。発売されている車種／タイプの中から現車の車種／タイプを、例えば、クラウン・セダンと選択する。

【0025】ミッションは、オートマチックか、マニュアルミッションかの選択をするもので、現車のミッションの状態、例えば、オートマチックを入力する。A/Cは、エアコンで、エアコンの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準でエアコン有である。また、S/Rは、サンルーフで、サンルーフの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準装備でサンルーフ無である。さらにメーター状況であるが、メーター状況は、メーター戻しが行われているか（戻し歴が有るか）否か、現在付いているメーターが現車の発売当初から付いていたメーターから新しいメーターに交換したものか（交換歴が有るか）、それ以外（正常）を入力する。このミッション、A/C有無、S/R有無を入力すると、現車走行距離の入力に入る。この現車走行距離は、現車の現在までの総走行距離のことで、走行距離評価（Km査定）の基礎になるもので必須入力項目である。この現車走行距離を入力しても、現車の基準走行距離（初年度登録年月日から現在の時点までに現車が走行する平均的な走行距離）を遥かに超えて走行している超多走行の場合（例えば、基準走行距離が11,000Kmであるのに、50,000Kmをオーバーするような走行距離の場合）は、原則として査定不可（査定できない）となり、処理を続行しようとする、本査定ではなく暫定査定となる。この現車走行距離は、現車の査定時までに行走した総走行距離を入力すればよく、例えば、4,396Km（少走行）である。

【0026】査定担当者は、業者（ディーラー）の誰が担当したかを明確にするためのもので必須入力項目ではない。このようにして必要事項を入力すると、図11に示す如く顧客情報の入力と車種タイプの選定が終了する。

【0027】このステップ2において顧客情報の入力と車種タイプの選定を行うと、ステップ3において、現車の買取査定の際に必要な必須情報の入力終了したか否かを判定する。すなわち、ステップ3においては、現車を査定するのに必要な基本データである初年度登録年月日、車検満了年月日、メーカー／排気量、車種／タイプ、現車走行距離の入力が終了しているか否かを判定する。これらのデータが入力されないと次の処理がなされない。これら入力基本データの内、車検満了年月日と排気量は必須入力項目ではなく、データの入力がなくても

処理を続行することは可能となっている。

【0028】ステップ3において現車を査定する際に必要な必須情報の入力終了したと判定すると、ステップ4において、ステップ2において入力したメーカー／排気量、車種タイプの選定から発売期間の特定（年式の特定）を行う。この発売期間の特定は、自動的に発売期間を特定できない場合、例えば、同じ年に現車と同一の車種についてフルモデルチェンジが行われている場合で、同時期に、フルモデルチェンジ前の車とフルモデルチェンジ後の車の両方が発売されていることがあるようなときに行う。例えば、平成7年12月に発売されていたトヨタ クラウン セダンは、平成7年1月から発売されている車が平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたというだけでは、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売された車、すなわちフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売された車、すなわちフルモデルチェンジ後の車なのか不明となっている。そのため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたトヨタ クラウン セダンの場合は、図12に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのかを選択して入力することが必要となる。そこで、現車が例えば、平成7年1月～平成7年11月までに発売された車で、フルモデルチェンジ前の車である場合は、その旨を入力する。したがって、フルモデルチェンジが行われていない場合には、ステップ4の作業は省略され自動的に発売期間が特定される。

【0029】ステップ4において現車の発売期間の特定（年式の特定）が行われると、ステップ5において、ステップ4で特定した発売期間に発売されたステップ2で選定したメーカー／排気量、車種タイプについてのグレードを図13に示す如く一覧表示する。平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン 3000CCの車には、図13に示すように4つのグレードが存在する。そこで、これら一覧表示された4つのグレードの中から、ステップ6において、現車のグレードを、例えば、RサルーンGを選択する。

【0030】ステップ6において現車のグレードの選択を行うと、ステップ7において、現車の確認を行う。すなわち、ステップ7において、ステップ2とステップ4とステップ6において選定した現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を図14に示す如く表示する。この主要諸元は、メーカー（例えば、トヨタ）、車種タイプ（例えば、クラウン、セダン）、発売期間（例えば、7年1月～7年11月）、排気量（例えば、3000cc）、エンジン種類（例えば、DOHC）、燃料供給装置（例えば、EFI）、駆動装置（例えば、2

WD）、ドア数（例えば、4ドア）、グレード（例えば、RサルーンG）、形式（例えば、E-JZS135）、定員（例えば、5人）、ミッション（例えば、4A；フロア4速オートマチック）、新車価格（例えば、4,030,000円）等である（他に、過給器、屋根形状がある）。このステップ7において現車の主要諸元を確認し、現車の主要諸元に間違いがなければ、ステップ8において、現車のボディカラーの選定に移る。すなわち、ステップ8において、ステップ6において選定した現車と同一車種タイプに用いられたボディカラーを図15に示す如く一覧表示する。選定したグレードで平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン 3000CCの車は、図15に示すように6種類である。

【0031】このステップ8において現車と同一車種に用いられたボディカラーが一覧表示されると、ステップ9において、この一覧表示された各種ボディカラーの中から現車のボディカラー（例えば、シルバーメタリック）を選択入力する。車は、同じ車種タイプ・グレードであってもボディカラーによって人気の度合いが異なり、人気ボディカラーの場合には中古車業界でも需要が多く、不人気ボディカラーの場合には中古車業界でも需要が少ないといったようにボディカラーが中古車の売れ行きに大きな影響を与えている。このため中古車の場合は、人気ボディカラーの場合には販売価格が高いため査定価格が高くなり、不人気ボディカラーの場合には販売価格が低いため査定価格が低くなるといったように、ボディカラーの相違が査定価格の相違となって現れてくる。

【0032】ステップ9において現車のボディカラーを選択入力すると、ステップ10において、現車についての車両の状況入力を行う。車両の状況入力は、図16に示す如く、修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要があるか否か、現状事故車か否かの4項目に加えて、外装の現状入力の可否、内装の現状入力の可否、電装品の現状入力の可否、機関・足回りの現状入力の可否、装備品の現状入力の可否の5項目である。修復歴の有無は、現在車両外装は正常であるが以前に外装破損を起こしたことがある場合、すなわち過去の事故歴の有無のことで、過去に事故に遭い車両外装を修復してある場合が修復歴有で、外装破損を起こしていなければ修復歴無となる。修復歴には、軽度、中度、重度の区別があり、重度の修復歴の場合には、事故の大きさや事故の後遺症（事故後の癖）などがまちまちで、人間の判断による査定が不可欠なことから買取査定ができないと判断する。すなわち、重度の修復歴の場合には、買取りしない。このように重度の修復歴有の場合に買取査定ができないとするのは、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。軽度の修復歴の場合、中度の修復歴の場合には、修復の状態を判断して買取査定額に反

映させる。しかし、軽度の修復歴、中度の修復歴であっても、軽度の修復歴、中度の修復歴が複数箇所ある場合は、過去に複数回事故を起こした可能性が高く、車両の価値としては高く評価できない。そこで、軽度の修復歴を2点、中度の修復歴を3点とし、修復歴の合計点数が6点を超える（7点以上になる）と、重度の修復歴有りと同一と判断し、買取査定ができないと判断する。

【0033】改造車については、改造車でないのが原則で、改造している場合、その改造がドレスアップ改造なのか、違法改造なのかの入力が必要である。違法改造というのは、道路運送車両法に定める安全基準に該当しない改造のことである。道路運送車両法に定める安全基準を満足するドレスアップ改造は、適法な改造であるので買取査定が行われる。しかし、違法改造の場合は、道路運送車両法に定める安全基準を満足するように、すなわち適法な状態に戻すための再改造を必要とするため買取査定価額の算定が困難なため買取査定ができないと判断する。すなわち、違法改造車の場合には、買取りしない。

【0034】全塗装については、外装の傷みが酷く塗装をし直す必要があるかないか、また、全塗装歴があるか否かで、この全塗装歴有りの場合に元色全塗装（新車のときと同じ色で全塗装し直し）なのか色替全塗装（新車のときと別な色で全塗装し直し）なのかである。現状事故車については、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。したがって、事故を起こしたのが過去でも現在修復していなければ現状事故車となる。

【0035】現状事故車には、事故の程度によって軽度、中度、重度の区別があり、重度の事故車の場合には、事故の大きさや事故の後遺症（事故後の癖）などがまちまちで、人間の判断による査定が不可欠なことから買取査定ができないと判断する。すなわち、重度の事故車の場合には、買取りしない。このように重度の現状事故車の場合に買取査定ができないとするのは、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。軽度の事故車の場合、中度の事故車の場合には、事故の状態を判断して買取査定額に反映させる。しかし、軽度の事故車、中度の事故車であっても、軽度の事故箇所、中度の事故箇所が複数箇所ある場合は、複数回事故を起こした可能性が高く、車両の価値は低下しているものと考えられる。そこで、軽度の事故箇所を2点、中度の事故箇所を3点とし、事故箇所の合計点数が6点を超える

（7点以上になる）と、重度の事故車と同一と判断し、買取査定ができないと判断する。これら修復歴有、違法改造、全塗装要、現状事故はいずれも査定上マイナス要因である。

【0036】ステップ10において、図16における現

車についての車両の状況入力について、修復歴無し、改造無し、全塗装の必要無し、事故車ではない、外装の現状入力について入力しない、内装の現状入力について入力しない、電装品の現状入力について入力しない、機関・足回りの現状入力について入力しない、装備品の現状入力について入力しないを選択して入力を行うと、ステップ11において、車両の状況についての必要事項の入力が行われたか否かを判定する。すなわち、ステップ10において車両状況について修復歴の有無、改造の有無、全塗装要否、現状事故の有無、外装の現状入力の可否、内装の現状入力の可否、電装品の現状入力の可否、機関・足回りの現状入力の可否、装備品の現状入力の可否の入力が全部入力されるのを待つ。

【0037】ステップ11において車両の状況についての必要事項の入力が行われたと判定すると、ステップ12において、現車の総合評価点を入力する。この総合評価点を決める評価基準としては、0.0～9.0までであるが、簡易型の買取査定を行う中古車の場合、本実施の形態においては、0.0～5.0の評価を入力している。評価基準9.0点は、未登録車または当月登録の新同車で無傷無補修であり、走行が500km以内のものの場合である。評価基準8.0点は、登録後6ヵ月未満で無傷無補修であり、走行が3,000km以内のものの場合である。評価基準7.0点は、登録後1年未満で無傷無補修であり、走行が1万km以内のものの場合である。評価基準6.0点は、外装・内装がほとんど無傷無補修で、加修の必要がなくそのまま展示できること、標準走行km（15,000km/年）以内で実走30,000km未満であり、タイヤ5分山以上であること、エンジン足回り関係が走行に支障なく良好である場合である。

【0038】評価基準5.0点は、目立たない傷、凹があるものの、外装・内装ほとんど加修の必要がなくそのまま展示できる場合である。内装については、加修の必要がないか又は必要性が低くそのまま展示できるか、目立たない小さな破れ、軽い焦げ又は簡単に取れる汚れ等が全部で2～3ヵ所までで、大きな部品の欠品がないこと。外装については、傷・凹が2～3cmほどの小さな傷、小凹が2～3ヵ所以内で、板金塗装済の直し方が良好なこと。ボディ外装の部品の交換がなく、エンジン足回り関係が走行に支障なく良好で、実走60,000km未満のもの。評価基準4.5点は、内装・外装共に軽微な補修をすることにより評価基準5.0点に準ずるものになる。内装については、加修の必要がないか又は不具合内容があまり商品価値に影響しないもの、小さな破れ、軽い焦げ、擦れ、ビス穴が数箇所あるもの、小さな焦げ穴ダッシュボードの小さな浮きがあるもの、簡単に取れる汚れが全部で数箇所までのものである場合。外装については、外装にある傷・凹が2～3cmほどの小さな傷、ゴルフボールほどの凹が少々あるもの、板金塗装済

で少々波のあるもの、ガラス割れ（ヒビ、ワイパーキズ
の大きいもの）のあるものの場合。板金塗装済の場合
は、直し方が良好なもの。

【0039】評価基準4. 0点は、目立つ傷、凹、錆が
少々有り、加修が必要と思われるもの。内装につい
ては、軽微な加修を必要とするもの、また、不具合内容が
商品価値を下げるもの、焦げ、焦げ穴、擦れ、破れがあ
るもの、また、目立つビス穴、ダッシュボードの浮き、
小さなヒビ割れ等があるもの、汚れはあるがクリーン
グにより簡単に取れるものである場合。外装につい
ては、2～3cmほどの小さな傷、ゴルフボールほどの凹が
多数あり、20～40cmの大きな傷が数箇所あるもの、
握り拳以上の大きめの凹が2～3か所あるもの、板金塗
装済で大きな波、少々色ボケ、ムラのあるものである場
合。評価基準3. 5点は、大小の板金や加修を必要とす
る所が数箇所あるもので、部分的に補修ボケ、色褪せの
あるもの。内装については、加修を必要とするもの、多
数の焦げ穴、破れ等があり張替えが必要なもの、ダッ
シュボードが大きく変形したもの、クリーニングをしても
落ちない酷い汚れがあるものである場合。外装につい
ては、大きな傷が多数、大きめの凹が数箇所あるもの、交
換を必要とするほど酷い凹、傷のあるもの、板金塗装済
だが再補修が必要なもの、錆が多いもの、腐食のあるも
のである場合。

【0040】評価基準3. 0点は、外装が全体にボケて
いるもの、塗装してあるが塗装状態が酷く悪いもの、各
所に酷く錆のあるもの、そのままの状態では展示できな
いものである。内装については、大きな補修を必要とす
るもの、ダッシュボード等に目立つ大きなヒビ割れや、
加工跡があり交換を要するもの、内装、シート等に酷い
汚れ、破れまたはヘタリ等のあるもの、室内に強い異臭
があり、そのままの状態では展示できないものである場
合。外装については、ボディが全補修の必要なもの

（傷、凹の多いもの、色ボケ等）、腐食が多く、腐食穴
のあるものである場合。評価基準2. 0点は、評価基準
3. 0点以上に評価できないほど商品価値の少ない車両
である場合。評価基準1. 0点は、改造車（道路運送車
両法に定める安全基準に該当するものの原形を止めない
ほどに改造を施したもの）である場合、粗悪車（ボディ
主要パーツ（フレーム、ピラー、フロアパネル、インナ
ーパネル、ルーフパネル等）に腐食穴などがあり、次回
車検に通らないと思われるもの）である場合、冠水車

（車両が災害や自らの浸水により水または泥等に漬かっ
たもの、および川に転落した等それに準じるもの）・塩
害車（海岸などにより下回り等が酷い錆、腐食でボル
ト、ナットの締め付けや整備が不能になったもの）・雹
害車（雹によってボディ上面に小凹が多数あり修復が容
易でないもの）・吊上げ車（田圃に突っ込んだ場合等自
らの力で搬出できずクレーン車等により吊上げられたも
の）・災害のために著しく商品価値の下落が認められる

車などの災害車である場合、ラリー用に造られた競技車
である場合である。

【0041】評価基準0. 0点は、買取査定ができない
買取査定不可のもので、違法改造車（道路運送車両法に
定める安全基準に該当していないもの）である場合、修
復歴車（重度の修復歴のある車）である場合、現状事故
車（重度の事故である車）の場合である。

【0042】ステップ12において現車についての総合
評価点を図16に示す如く例えば、3. 5と入力する
と、ステップ13において、現車についての総合評価点
の入力が行われたか否かを判定する。このステップ13
において現車についての総合評価点の入力が行われたと
判定すると、ステップ14において、現車の状況入力事
項及び現車についての総合評価点を買取査定部署（支
店）から買取保証額決定部署（本部）へ送信して、買取
保証額決定部署（本部）において現車の現状確認を行
う。買取保証額決定部署（本部）においては、買取査定
部署（支店）から送信されてきた現車の状況データ及び
現車についての総合評価点とから現車の買取査定を行
い、その査定結果を買取査定部署（支店）に送信する。

【0043】ステップ14において現車の状況入力事項
及び現車についての総合評価点を買取保証額決定部署
（本部）へ送信すると、買取査定部署（支店）では、買
取保証額決定部署（本部）において行われた現車の買取
査定結果が買取保証額決定部署（本部）から送信されて
くるのを待つ。

【0044】ステップ15において、買取保証額決定部
署（本部）から現車についての現状確認に基づく現車の
買取評価額の入力があるのを待ち、このステップ15に
おいて、買取保証額決定部署（本部）から現車につい
ての現状確認に基づく現車の買取評価額の入力があつた
と判定すると、ステップ16において、買取査定部署（支
店）に買取保証額決定部署（本部）から送信されてきた
現車についての現状確認に基づく現車の買取評価額の
入力があつたと判定すると、図17に示す如く確定買取
査定額を¥1, 971, 743と表示し、簡易型の買取
査定を終了する。ステップ14において現車の状況入力
事項及び現車についての総合評価点を買取保証額決定部
署（本部）へ送信した後、買取保証額決定部署（本部）
において現車の現状に不明な部分がある場合には、不明
な部分はそのままにして買取査定を実行し、買取査定部
署（支店）には、確定買取査定額（買取保証額）では
なく、参考買取査定額として図18に示す如く表示す
る。この買取参考査定額は、現車の現状について、例
えば、初年度登録年月から2年以上経過しているの外装
の現況についての入力をしないといったような、不明な
部分（買取査定する際に必要とする事項の入力がない）
がある場合、これら不明な部分について問題ないもの
として買取査定を行ったときの買取査定額が現車の良
好な条件における買取査定額であると参考にするための
ものと

して行う買取査定である。したがって、参考買取査定額は、¥1,971,743と算出され、現車に何の問題もないとして行った図17に示す如き確定買取査定額と同一の金額となる。同一の金額が算出されても、参考買取査定額と確定買取査定額との違いは、確定買取査定額の場合は、買取保証額決定部署（本部）が現車について買い取る際の買取額を保証したもので、ユーザーが現車を中古車ディーラーに譲渡するときの売り渡し額として保証されたものであるのに対し、参考買取査定額の場合は、あくまでもユーザーが現車を中古車ディーラーに譲渡するときの参考にしてもらうためのもので、ユーザーが実際に現車を中古車ディーラーに譲渡しようとする場合、参考買取査定額に示された¥1,971,743の額で中古車ディーラーに売り渡せると保証された額ではないものである。

【0045】図17における確定買取査定は、図11の顧客情報の入力と車種タイプの選択における現車走行距離が4,396Kmと現車の車種タイプの基準走行距離、11,050Kmに比して少走行である場合である。そこで、顧客情報の入力と車種タイプの選択における現車走行距離が図19に示す如く、例えば、13,467Kmと現車の車種タイプの基準走行距離、11,050Kmに比して多走行である場合について説明する。現車走行距離が図19に示す如く13,467Kmの場合、図11の顧客情報の入力と車種タイプの選択における現車走行距離が4,396Kmと少走行である場合と同様の処理を行うと、図20に示す如く、確定買取査定額が¥1,871,365となる。この現車走行距離が13,467Kmの場合の確定買取査定額¥1,871,365が図11の現車走行距離が4,396Kmの少走行の場合の確定買取査定額¥1,971,743と異なった買取査定額となるのは、現車走行距離が相違することによるものである。この現車の走行距離が13,467Kmと現車の車種タイプの基準走行距離、11,050Kmに比して多走行である場合で、現車の現状に不明な部分がある場合に、不明な部分はそのままにして買取査定を実行する場合は、買取参考査定額として図21に示す如く表示される。この買取参考査定によって提示される参考買取査定額¥1,871,743は、現車に何の問題もないとして行った図20に示す確定買取査定額と同一の金額となる。このような簡易型の買取査定に対し詳細型の買取査定を選択する場合、すなわち、ステップ1において簡易型の買取査定を行わない、すなわち詳細型の買取査定を行うと判定すると、まず、ステップ17において、査定対象車（現車）の買取査定を依頼してきた顧客者の顧客情報の入力と車種タイプの選択を行う。

【0046】ステップ17においては、現車の買取査定を依頼してきた顧客者の氏名（例えば、日本太郎）、住所・電話番号（例えば、東京都港区広尾1-3-25

TEL(03)3897-2465）、初年度登録年月日（例えば、平成7年12月8日）、登録番号（例えば、練馬-33-ほ-8304）、車検満了年月日（例えば、平成10年12月7日）、台車番号（88888）、メーカー／排気量（例えば、トヨタ、3000cc）、車種／タイプ（例えば、クラウン・セダン）、ミッション（例えば、オートマ）、A/C有無（例えば、有り）、S/R有無（例えば、無し）、メーター状況（例えば、正常）、現車走行距離（例えば、4,396Km）、査定担当者（道祖土 和正）と図11に示す如く入力する。

【0047】このステップ17において顧客情報の入力と車種タイプの選定を行うと、ステップ18において、現車の買取査定する際に必要な必須情報（初年度登録年月日、登録番号、車検満了年月日、台車番号、メーカー／排気量、車種／タイプ、ミッション、A/C有無、S/R有無、メーター状況、現車走行距離）の入力が終了したか否かを判定する。このステップ18において現車を査定する際に必要な必須情報の入力が終了したと判定すると、ステップ19において、ステップ17で入力したメーカー／排気量、車種タイプの選定から平成7年12月8日に初年度登録が行われたトヨタ クラウン セダンの場合は、図12に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われており、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのかを選択して、例えば、平成7年1月～平成7年11月までに発売された車であることを入力して現車の発売期間の特定（年式の特定）を行う。ステップ19において現車の発売期間の特定（年式の特定）が行われると、ステップ20において、ステップ19で特定した発売期間に発売されたステップ17で選定したメーカー／排気量、車種タイプについてのグレードを図13に示す如く4つのグレードを一覧表示する。この4つのグレードの中から、ステップ21において、現車のグレード、例えば、RサルーンGを選択する。ステップ21において現車のグレードの選択を行うと、ステップ22において、現車の確認を行う。すなわち、ステップ22において、ステップ17とステップ19とステップ21において選定した現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を図14に示す如く表示する。

【0048】このステップ22において現車の主要諸元を確認し、現車の主要諸元に間違いがなければ、ステップ23において、現車のボディカラーの選定に移る。すなわち、ステップ23において、ステップ21において選定した現車と同一車種タイプに用いられたボディカラーを図15に示す如く一覧表示する。選定したグレードで平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン 3000CCの車は、図15に示すように6種類である。このステップ23において現車と同

一車種に用いられたボディーカラーが一覧表示されると、ステップ24において、この一覧表示された各種ボディーカラーの中から現車のボディーカラー（例えば、シルバーメタリック）を選択入力する。

【0049】ステップ24において現車のボディーカラーを選択入力すると、ステップ25において、現車についての車両の情報を買取保証額決定部署（本部）に送信する。買取査定部署（支店）から現車についての車両の情報を送信された買取保証額決定部署（本部）では、現車について、送信された車両情報を元に現車の確認を行い、確認の成否を買取査定部署（支店）に送信する。

【0050】ステップ25において現車についての車両の情報を買取保証額決定部署（本部）に送信した後、買取査定部署（支店）では買取保証額決定部署（本部）から現車の確認ができたか否かの応答を待ち、ステップ26において、買取査定部署（支店）に対して買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答があったと判定すると、ステップ27において、買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答の判定、すなわち、買取保証額決定部署（本部）からの応答が、現車の買取査定が可能であるとの評価であるか否かの判定を行う。このステップ27において買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答が、現車の買取査定が可能でないとの評価応答であると判定すると、ステップ28において、現車に重大な欠陥があるため買取査定ができないことを表示する。

【0051】また、ステップ27において買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答が買取査定が可能であると判定すると、ステップ29において、買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答が現車の情報に不明な部分が無いという応答か否かを判定する。すなわち、ステップ29においては、買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に関して不明な部分が無いという応答があったか否かを判定している。このステップ29において買取査定部署（支店）が受け取った買取保証額決定部署（本部）から現車の情報に対する確認の応答が、買取査定部署（支店）から送信された現車の情報に不明な部分があるという応答であると判定すると、買取保証額決定部署（本部）は、現車の情報に不明な部分があることを買取査定部署（支店）に送信し、ステップ30において、買取査定部署（支店）側でこのままの状態で行うか否かを決定させる。買取査定部署（支店）側でこのままの状態で行うと判断すると、すなわち、ステップ30においてこのままの状態で行うと判定すると、ステップ31において、買取保証額決定部署（本部）で現車の情報の内の不明な部分をそのままにして

（良好な状態として）買取参考査定を実施する。買取保証額決定部署（本部）で行った買取参考査定の結果を参考買取査定額として買取査定部署（支店）に送信

する。買取参考査定の結果を受信した買取査定部署（支店）においては、ステップ32において、確定買取査定額（買取保証額）ではなく、買取参考査定額として図18に示す如く表示する。この買取参考査定額は、暫定的なもので、現車の良好な条件における買取査定額を示したもので、現車を譲渡する際の参考にするためのものである。したがって、買取参考査定額は、¥1,971,743と算出され、現車の簡易型の買取査定の場合と同一の金額となる。また、ステップ30においてこのままの状態では買取査定を行わないと判定すると、このフローを終了する。

【0052】また、ステップ29において買取保証額決定部署（本部）が、買取査定部署（支店）から送信された現車の情報に不明な部分がないと判定すると、ステップ33において、現車について買取保証額決定部署（本部）に他店舗で買取査定を行ったことがあるか否かの検索を行う。この現車についての他店舗での買取査定の検索は、例えば、過去2週間以内とか、過去1ヵ月位を目途に行う。これ以上長い期間を遡ると、前回の買取査定時から現在までの間に現車の状況が大きく変化することが予測され、前回の買取査定の内容を参考にするこの意味がなくなり、そのまま使うことができないことが多いからである。このステップ33において現車について買取保証額決定部署（本部）に他店舗で買取査定を受けた記録が残っており、現車について行った前回買取査定のデータが残っていると判定すると、ステップ34において、買取保証額決定部署（本部）に記録されている他店舗で行った買取査定実績に基づいて買取査定を行うか否かを特定する。すなわち、他店舗における買取査定実績データを今回の買取査定に反映させるか否かを判定する。このステップ34において、他店舗で行った買取査定実績に基づいて買取査定を行うと判定すると、ステップ35において現車の他店舗で行った買取査定を読み出し表示する。

【0053】そして、ステップ36において、現車について他店舗において行った前回の買取査定実績とは別に再査定をすることなく、他店舗において行った前回の買取査定実績をそのまま今回の買取査定として採用するか否かを判定する。このステップ36において、現車について他店舗において行った前回の買取査定実績をそのまま今回の買取査定として採用すると判定すると、ステップ37において成約・売買契約書の作成処理を行い、処理フローを終了する。

【0054】また、ステップ33において買取保証額決定部署（本部）に他店舗での買取査定実績の記録がないと判定するか、ステップ34において買取保証額決定部署（本部）に記録されている他店舗での買取査定実績に基づいて買取査定を行わないと判定するか、ステップ36において現車について他店舗において行った前回の買取査定実績を用いないで改めて買取査定を行うと判定

すると、ステップ38において、現車について現状買取り査定を実行して、まず、現車の外装の現状入力を図22に示す如く入力する。この外装の現状入力は、図22に示す如く、修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要の有無・全塗装歴があるか否か、現状事故車か否かの4項目である。修復歴の有無は、以前に外装破損を起こし修復してある場合、修復歴有で、外装破損を起こしていなければ修復歴無となる。改造車については、改造車でないのが原則で、改造している場合、その改造がドレスアップ改造なのか、違法改造なのかの入力が必要である。全塗装については、外装の傷みが酷く塗装をし直す必要があるかないか、また、全塗装歴があるか否かで、この全塗装歴有りの場合に元色全塗装（新車のときと同じ色で全塗装し直し）なのか色替全塗装（新車のときと別な色で全塗装し直し）なのかである。また、現状事故車については、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。これら修復歴有、違法改造、全塗装要、現状事故はいずれも査定上マイナス要因である。また、原則として重度の修復歴有、重度の現状事故車の場合は、本査定はできず、参考査定となる。このように重度の修復歴有、重度の現状事故車の場合は、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。

【0055】ステップ38において現車についての外装の現状入力を行うと、ステップ39において、現車の外装現状において修復歴無しか否かを判定する。このステップ39において現車の外装現状において修復歴無しでない、すなわち、修復歴有りと判定すると、ステップ40において、図23に示す如き現状入力を行う。すなわち、修復歴の入力箇所として、例えば、右前（中度）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（中度）、左横（OK）、トランクフロア（OK）、右後（OK）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）、事故の疑いの有無（車両状態が不明瞭）（なし）、フレーム修正機の傷跡の有無（なし）と入力する。右前と右横の中度は、修復の程度を表しており、OKは、修復の無しを表している。ステップ39において現車の外装現状において修復歴有りと判定したにも拘らずステップ40において、図23に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなくなり、参考査定または査定不可となる。さらに重度の修復歴有りの場合は、査定不可となる。

【0056】ステップ40において現車についての修復歴の状況入力を行うと、ステップ41において、修復歴箇所の入力が行われたか否かを判定する。このステップ41においては、ステップ39において修復歴有りと入力しているため、少なくとも1か所以上の修復歴の入力

がなければならず、少なくとも1か所以上の修復歴の入力が行われるのを待つ。

【0057】ステップ41において修復歴箇所の入力が終了したと判定するか、またはステップ39において修復歴無しと判定すると、ステップ42において、現車について現状で事故車でないか否かを判定する。現状で事故車ということは、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。ステップ38の現車の現状買取り査定における外装の現状入力において現車の現状が事故車であると入力してある場合は、ステップ43において、図24に示す如き現車の事故箇所の現状入力を行う。すなわち、ステップ43における事故箇所の入力箇所として、右前（OK）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（OK）、左横（OK）、トランクフロア（中度）、右後（中度）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）を入力する。トランクフロアと右後の中度は、事故の程度を表しており、OKは、事故による損傷無しを表している。

【0058】ステップ43において現車についての現状事故箇所の状況入力を行うと、ステップ44において、現状事故箇所の入力を終了したか否かを判定する。このステップ44においては、ステップ42において現状事故車と判定しているため少なくとも1か所以上の現状事故箇所の入力がなければならず、現状事故箇所の入力が行われるのを待つ。このステップ42において現状事故車と判定したにも拘らずステップ43において、図24に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなくなり、参考査定または査定不可となる。また、ステップ43において現車についての現状事故箇所でも1か所でも重度の事故箇所がある場合は、査定不可となる。

【0059】ステップ44において現状事故箇所の入力が行われたと判定するか、またはステップ42において現車が現状で事故車でないと判定すると、ステップ45において、図25に示す如き加修・補修歴の入力を行う。加修・補修歴として、例えば、バンパーの状態（無し）、フェンダーの状態（無し）、エプロンの状態（無し）、ドアの状態（無し）、ミラーの状態（無し）、電動ミラーの状態（無し）、ステップの状態（無し）、ボンネットの状態（無し）、ルーフの状態（無し）、トランクの蓋の状態（無し）、トランクの床の状態（無し）、インナーパネル左の状態（無し）、インナーパネル右の状態（無し）、ラジエータセルの状態（無し）、ルームクリーニング（済み）、シートの補修痕（無し）、ドア内張りの補修痕（無し）、天井の補修痕（無し）、じゅうたんの補修痕（無し）を入力する。各項目に対しては、加修・補修歴がある場合には、軽度の傷、

重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換歴が有りのいずれかの損傷の程度を入力する。これら加修・補修歴の入力項目は、評価無し（加修・補修歴無し）以外は、いずれも加修・補修歴における損傷の程度によって査定上マイナス要因になり得るものである。

【0060】ステップ45において加修・補修歴の入力を行うと、ステップ46において、図25に示す如き加修・補修歴の入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ46において図25に示す如き加修・補修歴の入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ47において、図26に示す如き外装関係の現状入力を行う。外装関係の現状入力項目としては、バンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、タイヤの使用の可否、ガラス交換の要否、ヘッドランプの状態、テール・コンビランプの状態がある。各項目に対しては、軽度の傷、重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換を要する、のいずれかの損傷状態を入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。ステップ47において外装関係に問題がない場合は、外装関係の現状入力力でバンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態のそれぞれが異常なし（損傷無し）、タイヤ使用可、ガラス交換の不要、ヘッドランプの状態OK、テール・コンビランプの状態OKを入力する。

【0061】また、ステップ47において外装関係に問題がある場合は、外装関係の現状入力力で各項目に対して、軽度の傷（A）、重度の傷（B）、軽度の凹み

（C）、重度の凹み（D）、軽度の腐食（E）、重度の腐食（F）、交換を要する（X）、のいずれかの損傷状態を記号で入力する。例えば、図26に示す如く、バンパーの状態（リア：X）、フェンダーの状態（右後：X）、エプロンの状態（リア：C）、ドアの状態（異常なし）、ミラーの状態（異常なし）、電動ミラーの状態（異常なし）、ステップの状態（異常なし）、ボンネットの状態（C）、ルーフの状態（異常なし）、トランクの蓋の状態（A）、トランクの床の状態（C）、インナーパネル左の状態（異常なし）、インナーパネル右の状態（異常なし）、ラジエータセルの状態（異常なし）、タイヤの使用の可否（左前後・右前後：使用可、スベア：有り）、ガラス交換の要否（フロント・左前後ドア

・右前後ドア・リア：不要）、ヘッドランプの状態（OK）、テール・コンビランプの状態（OK）を入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0062】このステップ48においては、図26に示す如き外装関係の現状入力についての全項目の入力がされるのを待ち、図26に示す如き外装関係の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、内装の状況入力を行う。現車についての内装の状況の現状入力は、図27に示す如く、室内の状況、トランクルームの状況、タバコ・ペットの臭い、ダッシュボードの破損の4項目である。これら内装の現状入力項目は、問題なし以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0063】まず、ステップ49において、室内の状況に問題ないかの判定を行う。ステップ49において室内の状況に問題があると判定すると、ステップ50において、問題の状況として、室内の汚れが有るか無いか、シートの破損が有るか無いか、ドア内張の破損が有るか無いか、天井の破損が有るか無いか、じゅうたんの破損が有るか無いかを入力する。すなわち、ステップ50においては、図27に示す如く、室内の状況について、室内の汚れ有り、シートの破損有り、ドア内張の破損無し、天井の破損無し、じゅうたんの破損の無しを入力する。

【0064】このステップ50において室内の状況の入力が行われると、ステップ51において、室内の状況の問題箇所の入力が終了するのを待つ。このステップ51において室内の状況の問題箇所の入力が終了したと判定するか、またはステップ49において室内の状況に問題がないと判定すると、ステップ52において、トランクルームの状況に問題が有るか無いか、車室内にタバコ・ペットの臭いが着いているか否か、ダッシュボードが破損しているか否かを入力する。すなわち、ステップ52においては、図27に示す如く、トランクルームの状況に問題なし、室内にタバコ・ペットの臭い（室内の臭い）に問題なし、ダッシュボードの破損に問題なしの入力を行う。

【0065】ステップ52において各種項目の入力が行われると、ステップ53において、図27に示す如き内装の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ53において図27に示す如き室内の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ54において、現車についての電装品の現状の入力を行う。電装品の現状入力は、図28に示す如く、エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ左前、パワーウィンドウ左後、パワーウィンドウ右前、パワーウィンドウ右後、ワイパー関係、メーターパネルの9項目である。これらについては、いずれも通常の使用が可能かどうか、すなわち、エアコンの通常の使用が可否、バッテリーの通常の使用が可能か交換が必要か、時計の通常の使用が可能か交換が必要か、パワーウ

インドウ左前の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ左後の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ右前の通常の使用が可能か作動不可修理要か、パワーウィンドウ右後の通常の使用が可能か作動不可修理要か、ワイパー関係の通常の使用が可能か交換が必要か、メーターパネルの通常の使用が可否の入力を行う。

【0066】これら電装品の現状入力項目は、通常の使用が可能以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0067】ステップ54において電装品の現状についての入力（例えば、通常の使用が可能）を行うと、ステップ55において、図28に示す如き電装品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ55において図28に示す如き電装品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ56において、現車についての機関・足回りの現状の入力を行う。機関・足回りの現状入力は、図29に示す如く、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目である。これらについては、いずれも通常に使用できるか、通常の使用が困難か否かの入力を行う。

【0068】これら機関・足回りの現状入力項目は、通常の使用が困難な場合は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0069】ステップ56において機関・足回りの現状についての入力（例えば、通常の使用が可能）を行うと、ステップ57において、図29に示す如き機関・足回りの現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ57において図29に示す如き機関・足回りの現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ58において、現車についての装備品の現状の入力を行う。装備品の現状の入力は、図30、図31に示す如く、ステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキの10項目である。これらについては、いずれも標準装備か、オプション装備か、使用状態が使用可能か不可能かの入力を行う。ステレオ・コンポ・CD以外は、標準装備では無しで、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSはオプションで追加装備となる。工具、ジャッキは、装備されているのが通常である。標準装備のステレオ・コンポ・CD、工具・ジャッキについては、使用可能の状態が通常で、『無し』であったり、『使用不可』であったりした場合には、査定上マイナス要因となる。また、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSについては、オプション（OP）で、追加装備されていれば査定上プラス要因となる。OP-A、

OP-B、OP-Cはそれぞれオプションのグレードを示しており、OP-Aが査定金額が最も高く、OP-B、OP-Cと査定金額は下がっていく。これらオプション装備品についても、使用可能の状態か否かで査定金額は異なる。使用が不可能の状態の場合、オプション装備品を単に取り外すだけでは新車当時の仕様に戻らないような場合は、むしろ査定上マイナス要因となる。工具、ジャッキは、装備されているのが当然で、工具が不足している場合、工具、ジャッキが無い場合は、査定上マイナス要因となる。さらに特に高価な工具、ジャッキがオプション装備されている場合は、その状況によって査定上プラス要因になることがある。

【0070】装備品の現状入力終了すると、現車の査定に必要な全ての情報の入力を完了することになる。そこで、このステップ58において装備品の現状について、標準装備については使用可能の状態、オプション装備品については装備なし、工具、ジャッキについては使用可能と図30、図31に示す如く入力すると、ステップ59において、図30、図31に示す如き装備品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。

【0071】このステップ59において図30、図31に示す如き装備品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ60において、図32に示す如く、各種減額、修理実費の入力を行う。すなわち、ステップ60においては、外装関係では、修復歴が有るが、これは一律で減額が決められており、また、現状事故車としての減額が一律に決められているので、内装関係の室内の状況についての減額を、例えば200,000円と入力する。このステップ60において各種減額、修理実費の入力した後、ステップ61において、各種減額、修理実費で金額に不明な箇所がないか否か判定する。

【0072】ステップ61において各種減額、修理実費で金額に不明な箇所がないと判定すると、ステップ62において、各種減額、修理実費についての入力項目全部の入力がなされたか否かの判定を行う。

【0073】また、ステップ61において各種減額、修理実費で金額に不明な箇所（例えば、内装関係の室内の状況についてどの程度の減査定を行うのか）があると判定すると、ステップ63において、各種減額、修理実費で金額に不明な箇所について買取保証額決定部署（本部）へ送信し、買取保証額決定部署（本部）に各種減額、修理実費で金額に不明な箇所の査定を問い合わせる。ステップ63において各種減額、修理実費で金額に不明な箇所の問い合わせを行った後、ステップ64において、各種減額、修理実費で金額に不明な箇所の買取保証額決定部署（本部）からの応答を待つ。すなわち、ステップ64において、各種減額、修理実費で金額に不明な箇所について買取保証額決定部署（本部）からの応答

があったか否かを判定する。このステップ64において、各種減額、修理実費で金額に不明な箇所について買取保証額決定部署（本部）からの応答があったと判定すると、ステップ65に進む。

【0074】ステップ62において、各種減額、修理実費についての入力項目全部の入力があったと判定すると、ステップ65において、現車についての買取査定額の演算を行う。演算が終了すると、ステップ66において、演算結果が確定買取査定額として図33に示す如く表示される。この確定買取査定額の表示には、査定日付（例えば、平成9年2月17日）、確定買取査定額（例えば、¥1,516,743）が同時に表示される。

【0075】ステップ66において演算結果が確定買取査定額（¥1,516,743）として表示されると、ステップ67において、確定買取査定額についての査定詳細情報の表示を行うか否かの判定を行う。このステップ67において、確定買取査定額についての査定詳細情報の表示を行わないと判定すると、このフローを終了する。そして、このステップ67において、確定買取査定額についての査定詳細情報の表示を行うと判定すると、ステップ68において、図34～図36の査定詳細情報の表示を行う。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額、さらに、買取時から車検満了日までの車検期間による車検の残期間による車検残存期間加算額のそれぞれである。

【0076】すなわち、外装関係における減額評価は、バンパー（-50,000）、フェンダー（-50,000）、エプロン（-20,000）、ボンネット（-20,000）、トランク（-30,000）、修復歴有り（-60,000）、現状事故車（-25,000）である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、タイヤ、ガラス、インナーパネル、ヘッドランプ、テール・コンビランプ、改造車、全塗装要については、評価0（評価減無し）である。内装関係における減額評価は、室内の状況（-200,000）である。その他、トランクルームの破損等、室内の臭い、ダッシュボードについては、評価0（評価減無し）である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0（評価減無し）である。また、機関・足回りのエンジンの修理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、

ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0（評価減無し）である。装備品関係のステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキは、いずれも評価0（評価減無し）である。

【0077】さらに、現車の基準走行距離は、11,050Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車走行距離が4,396Kmとなっており、現車は、基準走行距離に対して6,654Kmの少走行となっている。このため、この6,654Kmの少走行に対する走行距離評価が、¥66,540となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と22ヶ月残っており、車検残22ヶ月となる。この車検残についての評価額は、¥154,000となり、少走行距離評価額、車検残評価額は、いずれも査定上プラス要因となる。

【0078】なお、図示していないが、この図34～図36の査定詳細情報の表示には、隠しボタンがあり、この隠しボタンを選定すると、査定者による調整額の入力が可能となる。この調整額は、最終買取額（¥1,516,743）に取引上の上乗せをするために設けたもので、買取査定部署（支店）の査定者が、調整額を例えば、¥100,000と入力すると、最終買取額が10万円アップした¥1,616,743ということになる。

【0079】また、ステップ62において、各種減額、修理実費についての入力項目全部の入力がされていないと判定すると、ステップ69において、各種減額、修理実費の必要入力項目の内、金額の入力されていない項目のある状態で買取査定の演算を行うか否かを判定する。このステップ69において、各種減額、修理実費の必要入力項目の内、金額の入力されていない項目のある状態で買取査定の演算を行わないと判定すると、ステップ60に戻り、再度各種減額、修理実費の入力を行う。

【0080】また、このステップ69において、各種減額、修理実費の必要入力項目の内、金額の入力されていない項目のある状態で買取査定の演算を行うと判定すると、ステップ70において、図37に示す如く各種減額、修理実費の必要入力項目の内、金額の入力されていない項目（本実施の形態においては、内装関係における室内の状況だけである）のある状態で買取査定を実行する。この買取査定は、確定買取査定ではなく暫定買取査定となる。この暫定買取査定というのは、確定買取査定のように買取保証額を査定するのではなく、また、買取参考査定のように単なる中古車ディーラーに現車を売り渡すときの目安にするものでもなく、確定買取査定額に近い金額として把握できるものである。このステップ70において各種減額、修理実費の買取査定を実行すると、ステップ71において、暫定買取査定額として図38に示す如く表示する。この暫定買取査定

定額の表示には、査定日付（例えば、平成9年2月17日）、暫定買取り査定額（¥1,716,743）が同時に表示される。この暫定買取り査定額（¥1,716,743）は、図33に示される確定買取り査定額（¥1,516,743）と¥200,000の差があるが、この差額は、ステップ69において入力されるべき内装関係の室内の状況についての減額200,000円に相当するもので、ステップ69において入力されない場合、この入力されない減額分だけ高い査定額となる。ステップ71において演算結果が暫定買取り査定額（¥1,716,743）として表示され、このフローを終了する。

【0081】そして、暫定買取り査定額（¥1,716,743）は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額、さらに、買取り時から車検満了日までの車検期間による車検の残期間による車検残存期間加算額を加味したものである。

【0082】すなわち、外装関係における減額評価は、バンパー（-50,000）、フェンダー（-50,000）、エプロン（-20,000）、ボンネット（-20,000）、トランク（-30,000）、修復歴有り（-60,000）、現状事故車（-25,000）である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、タイヤ、ガラス、インナーパネル、ヘッドランプ、テール・コンビランプ、改造車、全塗装要については、評価0（評価減無し）である。内装関係における減額評価は、室内の状況（額不明）、その他、トランクルームの破損等、室内の臭い、ダッシュボードについては、評価0（評価減無し）である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0（評価減無し）である。また、機関・足回りのエンジンの修理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0（評価減無し）である。装備品関係のステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキは、いずれも評価0（評価減無し）である。

【0083】さらに、現車の基準走行距離は、11,050Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車走行距離が4,396Kmとなっており、現車は、基準

走行距離に対して6,654Kmの少走行となっている。このため、この6,654Kmの少走行に対する走行距離評価が、¥66,540となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と22ヶ月残っており、車検残22ヶ月となる。この車検残についての評価額は、¥154,000となり、少走行距離評価額、車検残評価額は、いずれも査定上プラス要因となる。これらを総合した暫定買取り査定額が¥1,716,743である。

【0084】したがって、本実施の形態によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【0085】図33における確定買取り査定は、図11の顧客情報の入力と車種タイプの選択における現車走行距離が4,396Kmと現車の車種タイプの基準走行距離、11,050Kmに比して少走行である場合である。そこで、顧客情報の入力と車種タイプの選択における現車走行距離が図19に示す如く、例えば、13,467Kmと現車の車種タイプの基準走行距離、11,050Kmに比して多走行である場合について説明する。

【0086】現車走行距離が図19に示す如く13,467Kmの場合において、現車の外装の現状入力が、修復歴無し、改造車でない、外装に傷みがなく全塗装をし直す必要がない、現状事故車でないを入力され、加修・補修歴が無し、外装関係の現状入力について評価無し（損傷無し）、内装の状況の現状入力について問題なし、電装品の現状入力について通常の使用が可能、電装品の現状について通常の使用が可能、機関・足回りの現状入力について通常に使用でき、装備品の現状の入力について標準装備のものについて使用状態で使用可能、オプション装備については装備なし、工具、ジャッキは使用可である場合の確定買取り査定額は、図39に示す如く、図20の簡易型による買取り査定における確定買取り査定額と同一の¥1,871,365となる。

【0087】この図39に図示の確定買取り査定額について、査定詳細情報の表示を行うと図40～図42のようになる。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額、さらに、買取り時から車検満了日までの車

検期間による車検の残期間による車検残存期間加算額のそれぞれである。すなわち、外装関係における減額評価、内装関係における減額評価は、電装関係における減額評価、機関・足回りにおける減額評価、装備品関係における減額評価は、全て評価0（評価減無し）であるため、全て『0』が入力される。

【0088】さらに、現車の基準走行距離は、11,050 Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車走行距離が13,467 Kmとなっており、現車は、基準走行距離に対して2,417 Kmの多走行となっている。このため、この2,417 Kmの多走行に対する走行距離評価が、（－）¥33,838となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と22ヶ月残っており、車検残が22ヶ月で、この車検残についての評価額は、（＋）¥154,000となる。この多走行距離評価額は、査定上マイナス要因となり、車検残存期間加算額は、査定上プラス要因となる。

【0089】なお、図示していないが、この図40～図42の査定詳細情報の表示には、隠しボタンがあり、この隠しボタンを選定すると、買取査定部署（支店）の査定者による調整額の入力が可能となる。この調整額は、商談の際、当事者間の駆け引きで最終買取額（¥1,871,365）に上乗せする金額を決定するもので、取引上、買取査定額に上乗せをするために設けたものである。したがって、買取査定部署（支店）の査定者が、調整額として、例えば、¥100,000と入力すると、最終買取額は10万円アップした¥1,971,365となる。

【0090】また、現車の総走行距離が図19に示す如く13,467 Kmの場合で、現車について、外装の現状入力、外装関係の現状入力、内装の状況の現状入力についてそれぞれ問題がある場合の買取り査定について説明する。

【0091】現車の外装の現状入力については、修復歴の入力箇所として、右前（中度）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（中度）、左横（OK）、トランクフロア（OK）、右後（OK）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）、事故の疑いの有無（車両状態が不明瞭）（なし）、フレーム修正機の傷跡の有無（なし）と入力する。外装の現状入力については、現車の現状が事故車で、事故箇所の入力箇所として、右前（OK）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（OK）、左横（OK）、トランクフロア（中度）、右後（中度）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）と入力する。加修・補修歴の入力については、加修・補修歴として、バンパーの状態（無し）、フェンダーの状態（無し）、エプロンの状態（無し）、ドアの状態（無し）、ミラーの状態（無し）、電

動ミラーの状態（無し）、ステップの状態（無し）、ボンネットの状態（無し）、ルーフの状態（無し）、トランクの蓋の状態（無し）、トランクの床の状態（無し）、インナーパネル左の状態（無し）、インナーパネル右の状態（無し）、ラジエータセルの状態（無し）、ルームクリーニング（済み）、シートの補修痕（無し）、ドア内張りの補修痕（無し）、天井の補修痕（無し）、じゅうたんの補修痕（無し）と入力する。

【0092】外装関係の現状入力については、バンパーの状態（リア：×）、フェンダーの状態（右後：×）、エプロンの状態（リア：C）、ドアの状態（異常なし）、ミラーの状態（異常なし）、電動ミラーの状態（異常なし）、ステップの状態（異常なし）、ボンネットの状態（C）、ルーフの状態（異常なし）、トランクの蓋の状態（A）、トランクの床の状態（C）、インナーパネル左の状態（異常なし）、インナーパネル右の状態（異常なし）、ラジエータセルの状態（異常なし）、タイヤの使用の可否（左前後・右前後：異常なし、スベア：有り）、ガラス交換の要否（フロント・左前後ドア・右前後ドア：不要、リア：不要）、ヘッドランプの状態（OK）、テール・コンビランプの状態（OK）を入力する。また、内装の状況の現状入力については、室内の状況に問題があり、室内の汚れ有り、シートの破損有り、ドア内張の破損無し、天井の破損無し、じゅうたんの破損の無しを入力、トランクルームの状況に問題なし、室内にタバコ・ペットの臭い（室内の臭い）に問題なし、ダッシュボードの破損に問題なしを入力、現車についての電装品の現状の入力については、通常の使用が可能と入力、現車についての機関・足回りの現状の入力については、通常の使用が可能と入力、装備品の現状の入力については、標準装備については使用可能の状態、オプション装備品については装備なし、工具、ジャッキについては使用可能を入力する。

【0093】各種減額、修理実費の入力では、外装関係の修復歴、現状事故車があるが、これは一律で減額が決められており、また、現状事故車としての減額の一律に決められているので、内装関係の室内の状況についての減額を、200,000円と入力し、現車についての買取り査定額の演算を行う。演算が終了すると、演算結果が確定買取り査定額として図43に示す如く表示される。この確定買取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成9年2月17日）、確定買取り査定額（例えば、¥1,416,365）が同時に表示される。

【0094】この確定買取り査定額（¥1,416,365）についての査定詳細情報は、図44～図46に示す如きである。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各

項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額、さらに、買取り時から車検満了日までの車検期間による車検の残期間による車検残存期間加算額のそれぞれである。

【0095】すなわち、外装関係における減額評価は、バンパー（－50,000）、フェンダー（－50,000）、エプロン（－20,000）、ボンネット（－20,000）、トランク（－30,000）、修復歴有り（－60,000）、現状事故車（－25,000）である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、タイヤ、ガラス、インナーパネル、ヘッドランプ、テール・コンビランプ、改造車、全塗装要については、評価0（評価減無し）である。内装関係における減額評価は、室内の状況（－200,000）である。その他、トランクルームの破損等、室内の臭い、ダッシュボードについては、評価0（評価減無し）である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0（評価減無し）である。また、機関・足回りのエンジンの修理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0（評価減無し）である。装備品関係のステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキは、いずれも評価0（評価減無し）である。

【0096】さらに、現車の基準走行距離は、11,050Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車走行距離が13,467Kmとなっており、現車は、基準走行距離に対して2,417Kmの多走行となっている。このため、この2,417Kmの多走行に対する走行距離評価が、（－）¥33,838となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と2ヶ月残っており、車検残が2ヶ月で、この車検残についての評価額は、（＋）¥154,000となる。この多走行距離評価額は、査定上マイナス要因となり、車検残存期間加算額は、査定上プラス要因となる。

【0097】なお、図示していないが、この図44～図46の査定詳細情報の表示には、隠しボタンがあり、この隠しボタンを選定すると、買取査定部署（支店）の査定者による調整額の入力が可能となる。この調整額は、商談の際、当事者間の駆け引きで最終買取額（¥1,416,365）に上乗せする金額を決定するもので、取引上、買取査定額に上乗せをするために設けたものである。したがって、買取査定部署（支店）の査定者が、調整額として、例えば、¥100,000と入力すると、最終買取額が10万円アップした¥1,516,743

となる。

【0098】また、各種減額、修理実費についての入力項目で内装関係の室内の状況についての減額（本実施例では、200,000円）が入力されていない状態で買取査定額の演算を行うと、確定買取査定ではなく暫定買取査定となる。暫定買取査定が行われると、図47に示す如く暫定買取査定額を表示する。この暫定買取査定額の表示には、査定日付（例えば、平成9年2月17日）、暫定買取査定額（¥1,716,743）が同時に表示される。この暫定買取査定額（¥1,716,743）は、図43に示される確定買取査定額（¥1,516,743）と¥200,000の差があるが、この差額は、各種減額、修理実費について内装関係の室内の状況について入力した減額分200,000円に相当するもので、暫定買取査定の場合、この内装関係の室内の状況についての減額（200,000円）を考慮しないため、この入力されない減額分だけ査定額が高くなる。

【0099】したがって、本実施の形態によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データー、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【0100】図48には、本発明に係る中古車の買取査定の処理方法を実現するための中古車の買取査定の処理装置の一実施の形態の基本構成が示されている。図において、80はCPUで、81はROM、82はRAM、83はI/O、84は入力装置、85はディスプレイ、86は各機器を接続するバスラインである。CPU80は、不揮発性メモリーで、入力装置84からI/O83を介して入力される入力信号に基づいて駆動するもので、入力装置84の操作によって必要なデータをROM81から読み出してディスプレイ85上に表示したり、入力装置84から入力されるデータをRAM82に格納したり、ROM81内のデータとRAM82内のデータとから必要な演算を行い、この演算結果をディスプレイ85上に表示するものである。

【0101】ROM81は、各種データを予め記憶しておくもので、ROM81には、

- a) 現存の乗用車メーカーの名称
- b) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種と、そのタイプ
- c) 各メーカーの各車種及びタイプについてのモデル
- d) 各メーカーの各車種及びタイプについてのグレード・エンジン・型式・駆動装置・ドア数・過給器・定員・屋根形状
- e) 各メーカーの現在発売している車種及び過去7年以

内に発売した車種タイプの新車価格

f) 各メーカーの各車種及びタイプについての各ボディカラー

g) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種タイプ、ボディカラーに基づいた年式だけによる本体の基本査定価格

h) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種タイプ毎の基準走行距離

i) 各車種タイプ毎の少走行時の単位距離当りの加算金額及び多走行時の単位距離当りの減算金額

j) 車両の状況入力項目

k) 総合評価点に対する評価額

l) 外装の現状入力項目

m) 修復歴の現状入力項目

n) 事故箇所の現状入力項目

o) 加修・補修歴の入力項目

p) 外装関係の現状入力項目

q) 内装の現状入力項目

r) 電装品の現状入力項目

s) 機関・足回りの現状入力項目

t) 装備品の現状入力項目

u) 各種減額、修理実費の入力項目

v) 査定調整範囲

が記憶されている。RAM 8 2は、揮発性メモリーで、入力装置 8 4から入力したデータを格納すると共に、入力装置 8 4から入力したデータに基づき演算した結果を格納する機能を有し、書き替え可能に構成されている。I/O 8 3は、入力装置 8 4とCPU 8 0とを接続するインターフェイスである。

【0102】入力装置 8 4は、データを書き込んだり、ROM 8 1に記憶されているデータをCPU 8 0に読み出させてプログラムを実行させたり、書き込んだデータに基づいてCPU 8 0に演算処理させたり、CPU 8 0で演算処理した結果をRAM 8 2に書き込ませたりする入力機器である。この入力装置 8 4は、キーボードでキー入力する方法、マウスでカーソルを移動して画面表示項目から選択入力する方法がある。また、さらに入力装置 8 4は、必要項目を記入した読取りスキャナーによる方法があり、この読取りスキャナーによる方法の場合は、読取りスキャナーによって車検証から必要事項を読み取らせる方法がある。この車検証を読み取らせる方法は、車検証をスキャナーに掛けることによって、車検証から顧客者の氏名、住所、査定対象者の型式（例えば、E-J Z S 1 3 5）、登録番号（例えば、練馬 3 3 ほ 8 3 0 4）、車体番号（例えば、8 8 8 8 8）、排気量（例えば、3 0 0 0 cc）、ミッション（例えば、オートマチック）、駆動装置（例えば、2 WD）、初年度登録年月日（例えば、平成 7 年 1 2 月 8 日）、車検満了日（例えば、平成 1 0 年 1 2 月 7 日）を読み取るようにしたものである。また、読取りスキャナーの場合は、車

検証以外に特製の査定書、マークシート等によっても可能である。さらには、所定の事項をバーコードで読み込むように構成することもできる。

【0103】ディスプレイ 8 5は、ROM 8 1から読み出したデータを表示したり、CPU 8 0で演算処理した結果を表示したりする表示装置である。バスライン 8 6は、CPU 8 0とROM 8 1を、CPU 8 0とRAM 8 2を、CPU 8 0とI/O 8 3とを接続する接続線である。

【0104】このコンピュータシステムは、オフィスコンピュータ又はパーソナルコンピュータによって構成することが可能である。この場合、あらゆる製造メーカー、製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在まで使用期間及び人気の度合いに基づく基準査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の基本走行データ等のデータは、ROM 8 1に格納することになるが、これらのデータは、社会の情勢（例えば、流行）に応じて変化するため、定期的な修正が必要で、この修正は、ROM 8 1の交換、あるいはROM 8 1内のデータの書き替えを行うことになる。この場合、このコンピュータシステムを利用する者にデータを提供する側がROM 8 1の交換、ROM 8 1内のデータの書き替え等を行うことになる。

【0105】また、このコンピュータシステムは、過去 7 以内に存在したあらゆる製造メーカー、製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在までの使用期間及び人気の度合いに基づく基準査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の車種タイプ別・グレード別の基本走行データ（基準走行距離）等、社会の情勢に応じて変化する車のあらゆるデータをホストコンピュータに持たせ、これらのデータを使用する者に端末機をもたせてランで接続することもできる。この場合、これらのデータを使用する者は端末機を操作することによって必要に応じてホストコンピュータに格納されているデータを読み出し、現車の査定を行うことができる。このように必要なデータをホストコンピュータに持たせると、これらのデータを社会の情勢に合わせてホストコンピュータ側で任意に変更したり、ホストコンピュータ側で定期的（例えば、月毎に）データの書き替えを行うことによって、最新の査定基準を端末機所有者に提供でき、中古車の買取り査定を行うディーラーは、最新の査定基準に基づいてより正確に中古車の買取り査定を行うことができる。

【0106】このように構成されるシステムにおいて、システムを立ち上げると、簡易型買取査定を行うのか、詳細買取査定を行うのかの選択画面がディスプレイ 8 5上に表示され、簡易型買取査定か、詳細買取査定かを選択する。簡易型買取査定、詳細買取査定のいずれかを選

扱すると、ディスプレイ85に図11、図19に示す如き顧客情報の入力画面（図11と図19とは、現車走行距離が異なっている）が表示される。この顧客情報の入力は、売手・買手を特定し、査定対象車の基本的データを入力して当該査定対象車の特定を行うためのもので、入力装置84によって入力を行い、この入力データはRAM82に格納される。

【0107】ディスプレイ85に表示される顧客情報の入力事項に基づいて、まず、現車の買取査定を依頼した人の顧客名（例えば、日本太郎）と、住所（例えば、東京都港区広尾1-3-25）と、電話番号（03-3897-2465）を入力装置84を用いて入力する。

【0108】次に、買取査定対象車の特定を行うため、初年度登録年月日、登録番号、車検満了年月日、台車番号、メーカー／排気量、車種／タイプ、ミッション、A／C有無、S／R有無、メーター状況、現車走行距離の各データを入力する。初年度登録年月日は、新車で購入したときに陸運局（関東地方であれば、関東陸運局）に登録した日付で、例えば、平成7年12月8日を入力装置84を用いて入力する。この初年度登録年月日を特定することによって、年式を決定することができ、初年度登録年月日が、例えば、平成7年12月8日であれば、現車の年式は、平成7年1月～平成7年12月に発売された車ということになる。登録番号は、陸運局に登録した番号で、ナンバープレートに表示され、例えば、練馬-33-ほ-8304を入力装置84を用いて入力する。車検満了年月日は、実際に車検が満了する日で、現車が初年度登録年月日から3年未満であれば、初年度登録年の3年後の応答日の前日、すなわち、初年度登録年月日が平成7年12月8日であれば、車検満了年月日は平成10年12月7日ということになる。車検終了年月日（平成10年12月7日）が特定すると、査定年月日が現実に査定をした日（例えば、平成9年2月17日）で自動的に入力されるので、現車の車検の残存期間（2ヶ月）が決まる。車台番号は、自動車1台毎につけられた番号で、例えば、88888である。メーカー／排気量の入力に当たっては、まず、入力装置84を操作して予めROM81に記憶されている製造メーカー名（トヨタ、ニッサン、ホンダ、三菱、ベンツ、BMW、フォード等）を読み出してディスプレイ85上に一覧表示し、この一覧表示された製造メーカー名の中から入力装置84を操作して現車の製造メーカー名（例えば、トヨタ）を選定する。メーカー名の選定の後、現車の排気量を例えば、3000CCと入力装置84を用いて入力する。

【0109】車種／タイプの入力に当たっては、現車の排気量の入力が行われると、該製造メーカーの車種タイプの頭文字（過去に発売された車種タイプの全部の頭文字が表示される）の中から現車の車種を示す頭文字、例えば、『ク』を入力装置84によって選定する。する

と、CPU80の動作によってROM81に予め記憶されているトヨタの車種タイプの中から選定した頭文字

（ク）の付く車種タイプの全部（クラウン 4ドアハードトップ、クラウン セダン、クレスト セダン、グランビア ワゴンの4種）をディスプレイ85に一覧表示する。この一覧に表示された車種タイプの中から現車の車種タイプ（例えば、クラウン・セダン）を入力装置84によって選定する。ミッションは、オートマチックか、マニュアルミッションかを入力装置84によって、例えば、オートマチックと入力する。A／Cは、エアコンで、エアコンの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、エアコンは標準装備となっており、エアコン有を入力装置84によって入力する。S／Rは、サンルーフで、サンルーフの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準装備でサンルーフ無となっている。メーター状況は、メーター戻しが行われているか（戻し歴があるか）否か、現在付いているメーターが現車の発売当初から付いていたメーターから新しいメーターに交換したものか（交換歴があるか）、それ以外（正常）かを選択して入力するもので、例えば、正常を入力装置84によって入力する。現車走行距離は、現車の現在までの総走行距離のことで、走行距離評価（Km査定）の基礎になるもので、例えば、4,396Km（少走行）、あるいは、13,467Km（多走行）と入力装置84によって入力する。

【0110】この現車走行距離の場合、現車の基準走行距離（初年度登録年月日から現在の時点までに現車が走行する平均的な走行距離）を遥かに超えて走行している超多走行の場合（例えば、基準走行距離が11,000Kmであるのに、50,000Kmをオーバーするような走行距離の場合）は、ディスプレイ85に超多走行であり査定できない旨のメッセージと、このまま買取査定を実行すると本査定ではなく暫定査定となる旨のメッセージが表示される。査定担当者は、買取査定部署（支店）の誰が担当したかを明確にするためのもので、例えば、道祖土 和正と入力装置84によって入力する。

【0111】顧客情報の入力項目全てを入力すると、この入力データは、RAM82に記憶される。また、顧客情報の入力項目全てを入力すると、入力データに基づいて現車のモデルが選定される。すなわち、現車のメーカー／排気量、車種タイプが選定（例えば、トヨタ・クラウン・セダン・3000CC）され、初年度登録年月日が特定され、同種タイプの車についての発売期間（年式）が特定される。ところが、平成7年12月8日に初年度登録されたトヨタ・クラウン・セダン・3000CCは、平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたというだけでは、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車な

のか特定できない。そこで、CPU80によって、ROM81に記憶されているデータを図12に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車と、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車とをディスプレイ85に表示する。そこで、入力装置84によって、現車の年式を、例えば、平成7年1月～平成7年11月と入力し、この特定された現車の年式は、RAM82に記憶される。

【0112】現車のモデルが選定されると、現車と同一の車種タイプについて、ROM81に予め記憶されている現車の年式の各種グレードと共にエンジン、型式、駆動装置、ドア数、過給器、定員、屋根形状がディスプレイ85に図13に示す如く一覧表示される。このディスプレイ85に一覧表示される図13に示す如き各種グレードの中から現車と同一のグレード（例えば、RサルーンG）を入力装置84によって選定し、この入力装置84によって選定されたグレードは、RAM82に記憶される。

【0113】このように現車のメーカー／排気量、車種タイプ、初年度登録年月日、ミッション、グレードの選定を行うと、CPU80の動作によって、ディスプレイ85に現車の主要諸元（メーカー、車種タイプ、発売期間、排気量、エンジン種類、燃料供給装置、過給器、駆動装置、ドア数、屋根形状、グレード、型式、定員、ミッション、新車価格、類別区分）を図14に示す如く表示する。

【0114】ディスプレイ85に表示される図14の如き現車の主要諸元を確認し、入力装置84によって確認の入力を行うと、CPU80が動作して、図15に示す如く、現車と同一車種タイプの車として発売された当時の各種ボディーカラーが一覧表示される。この図15に示される平成7年1月に発売されたトヨタ・クラウン・セダンのボディーカラーの中から現車のボディーカラー（例えば、シルバーメタリック）を入力装置84によって選択入力する。車のボディーカラーは、同じ車種タイプ・グレードであっても人気の度合いが異なり、売れ行を左右する要素となっており、中古車市場における需要度に大きな影響を与えている。そこで、一覧表示された各種ボディーカラーの中から現車のボディーカラーを選択入力することによって、同一のメーカー・車種タイプ・年式・グレードについて予めROM81に記憶されている基本本体査定価格が決定される。

【0115】現車のボディーカラーを選択入力すると、CPU80が駆動し、簡易型の買取査定の場合は、ROM81に予め記憶されている図16に示す如き現車についての現車両の状況入力（修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要があるか否か、現状事故車か否かの4項目に加えて、外装の現状入力の可否、内装の現状

入力の可否、電装品の現状入力の可否、機関・足回りの現状入力の可否、装備品の現状入力の可否の5項目）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。入力装置84によって、現車についての車両の状況入力について、修復歴無し、改造無し、全塗装の必要無し、事故車ではない、外装の現状入力について入力しない、内装の現状入力について入力しない、電装品の現状入力について入力しない、機関・足回りの現状入力について入力しない、装備品の現状入力について入力しない、と入力する。さらに、現車の総合評価点を図16に示す如く例えば、3.5と入力装置84によって入力する。この現車の総合評価点を入力すると、CPU80が駆動し、現車の状況入力事項及び現車についての総合評価点を買取査定部署（支店）から買取保証額決定部署（本部）へ送信する。買取保証額決定部署（本部）においては、買取査定部署（支店）から送信されてきた現車の状況データ及び現車についての総合評価点とから現車の買取査定を行い、その査定結果を買取査定部署（支店）に送信する。査定結果をCPU80が受けると、図17に示す如く確定買取査定額がディスプレイ85に表示される。また、現車の状況入力事項及び現車についての総合評価点を買取保証額決定部署（本部）へ送信した後、買取保証額決定部署（本部）において現車の現状に不明な部分がある場合には、不明な部分はそのままにして買取査定を実行し、買取査定部署（支店）には、確定買取査定額（買取保証額）ではなく、参考買取査定額として送信し、買取査定部署（支店）では、この参考買取査定額を図18に示す如く表示する。

【0116】一方、詳細型の買取査定の場合は、現車のボディーカラーを選択入力すると、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図22に示す如き外装の現状入力（修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要があるか否か、現状事故車か否かの4項目）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。入力装置84によって外装の現状入力について、修復歴有り、改造無し、全塗装の必要無し、事故車である、と入力する。外装の現状入力の入力を行うと、外装の現状入力において修復歴有りを入力してあるので、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図23に示す如き修復歴の現状入力を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。修復歴の入力箇所として、例えば、右前（中度）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（中度）、左横（OK）、トランクフロア（OK）、右後（OK）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）、事故の疑いの有無（車両状態が不明瞭）（なし）、フレーム修正機の傷跡の有無（なし）と入力する。また、原

則として重度の修復歴有の場合は、本査定はできず、参考査定となる。このように重度の修復歴有の場合に本査定をしないのは、重度の修復歴有の場合は、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。

【0117】修復歴の入力を行うと、外装の現状入力において事故車であると入力してあり、現状で事故車ということは、現車が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、外装の損傷がある箇所をそのままにしてある状態になっているとか、事故を起こした直後で外装の破損状態が酷い場合などである。修復歴の入力が終了すると、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図24に示す如き事故箇所の現状入力を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。事故箇所の入力箇所として、例えば、右前（OK）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（OK）、左横（OK）、トランクフロア（中度）、右後（中度）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（なし）を入力する。また、原則として重度の事故車の場合は、本査定はできず、参考査定となる。このように重度の事故車の場合に本査定をしないのは、重度の事故車の場合は、中古車市場で売買が成立する確立が低いことに基づいている。

【0118】修復歴の入力、事故箇所の入力が終わるか、外装の現状入力の入力において修復歴無し、改造無し、全塗装の必要無し、事故車でない、と入力すると、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図25に示す如き加修・補修歴の入力を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。加修・補修歴として、例えば、バンパーの状態（無し）、フェンダーの状態（無し）、エプロンの状態（無し）、ドアの状態（無し）、ミラーの状態（無し）、電動ミラーの状態（無し）、ステップの状態（無し）、ボンネットの状態（無し）、ルーフの状態（無し）、トランクの蓋の状態（無し）、トランクの床の状態（無し）、インナーパネル左の状態（無し）、インナーパネル右の状態（無し）、ラジエータセルの状態（無し）、ルームクリーニング（済み）、シートの補修痕（無し）、ドア内張りの補修痕（無し）、天井の補修痕（無し）、じゅうたんの補修痕（無し）と入力装置84によって入力する。加修・補修歴の入力を行うと、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図26に示す如き外装関係の現状入力（バンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態等）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。外装関係の現状入力は、軽度の傷（A）、重度の傷（B）、軽度の凹み（C）、重度の凹み（D）、軽度の腐食（E）、重度の腐食（F）、交換を要する（X）、のいずれかの損傷状態を記号で入力する。外装関係の現状入

力の入力として、バンパーの状態（リア：X）、フェンダーの状態（右後：X）、エプロンの状態（リア：C）、ドアの状態（異常なし）、ミラーの状態（異常なし）、電動ミラーの状態（異常なし）、ステップの状態（異常なし）、ボンネットの状態（C）、ルーフの状態（異常なし）、トランクの蓋の状態（A）、トランクの床の状態（C）、インナーパネル左の状態（異常なし）、インナーパネル右の状態（異常なし）、ラジエータセルの状態（異常なし）、タイヤの使用の可否（左前後・右前後：使用可、スペア：有り）、ガラス交換の可否（フロント・左前後ドア・右前後ドア・リア：不要）、ヘッドランプの状態（OK）、テール・コンビランプの状態（OK）と入力装置84によって入力する。

【0119】外装関係の現状入力の入力を行うと、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図27に示す如き内装の現状入力（室内の状況、トランクルームの状況、タバコ・ペットの臭い、ダッシュボードの破損の4項目）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。内装の現状入力として、室内の状況について、室内の汚れ有り、シートの破損有り、ドア内張の破損無し、天井の破損無し、じゅうたんの破損の無しを、トランクルームの状況に問題なし、室内にタバコ・ペットの臭い（室内の臭い）に問題なし、ダッシュボードの破損に問題なしを入力装置84によって選択入力する。内装の現状入力の入力を行うと、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図28に示す如き電装品の現状入力（エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ等の使用可否）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。電装品の現状入力として、エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ左前、パワーウィンドウ左後、パワーウィンドウ右前、パワーウィンドウ右後、ワイパー関係、メーターパネルのそれぞれに通常の使用可を入力装置84によって入力する。電装品の現状入力の入力を行うと、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図29に示す如き機関・足回りの現状入力（エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目）を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。機関・足回りの現状入力として、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りのそれぞれに通常の使用ができるを入力装置84によって選択入力する。

【0120】機関・足回りの現状入力の入力を行うと、CPU80が駆動し、ROM81に予め記憶されている図30、図31に示す如き装備品の現状入力（ステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4W

S, ABS, 工具、ジャッキの10項目)を読み出してディスプレイ85に表示して、入力装置84によって必要事項の入力を行う。装備品の現状入力として、ステレオ・コンポ・CD, テレビ, ナビゲーション, 空気清浄機, アルミホイール, スポイラー, エアバック, 4WS, ABS, 工具、ジャッキのそれぞれに、標準装備のものには標準で使用可能を、オプション装備のものには無しで使用可能を入力装置84によって選択入力する。

【0121】装備品の現状入力の入力を終了すると、CPU80が駆動し、外装の現状入力における修復歴有りに基づく修復箇所と修復程度、事故車に基づく事故箇所と事故程度、内装の現状入力における室内の状況問題ありに基づく室内の汚れ有り、シートの破損有りの入力によって、ROM81に予め記憶されている図32に示す如き各種減額、修理実費の入力を行う。外装関係では、修復歴が有るが、これは一律で減額が予めROM81に記憶されており、また、現状事故車としての減額も一律に予めROM81に記憶されているので、内装関係の室内の状況についての減額を、例えば200,000円と入力装置84によって入力する。

【0122】この各種減額、修理実費を入力すると、CPU80が駆動し、外装の現状入力、加修・補修歴の入力、外装関係の現状入力、内装の現状入力、電装品の現状入力、機関・足回りの現状入力、装備品の現状入力の全てのデータが買取査定部署(支店)から買取保証額決定部署(本部)に送信され、買取保証額決定部署(本部)において現車の買取査定を行い、その査定結果を買取査定部署(支店)に送信し、査定結果をCPU80が受けると、CPU80は、図33に示す如く確定買取り査定額をディスプレイ85に表示する。この確定買取り査定額の表示には、査定日付(例えば、平成9年2月17日)、確定買取り査定額(例えば、¥1,516,743)が同時に表示される。この確定買取り査定の詳細は、査定詳細情報の表示の選択を行うことによって図34~図36に示す如く表示される。この査定詳細情報の表示において、外装関係における減額評価は、バンパー(-50,000)、フェンダー(-50,000)、エプロン(-20,000)、ボンネット(-20,000)、トランク(-30,000)、修復歴有り(-60,000)、現状事故車(-25,000)である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、タイヤ、ガラス、インナーパネル、ヘッドランプ、テール・コンビランプ、改造車、全塗装要については、評価0(評価減無し)である。内装関係における減額評価は、室内の状況(-200,000)である。その他、トランクルームの破損等、室内の臭い、ダッシュボードについては、評価0(評価減無し)である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0(評価減無し)である。また、機関・足回りのエンジンの修

理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0(評価減無し)である。装備品関係のステレオ・コンポ・CD, テレビ, ナビゲーション, 空気清浄機, アルミホイール, スポイラー, エアバック, 4WS, ABS, 工具、ジャッキは、いずれも評価0(評価減無し)である。

【0123】さらに、現車の基準走行距離は、11,050Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車走行距離が4,396Kmとなっており、現車は、基準走行距離に対して6,654Kmの少走行となっている。このため、この6,654Kmの少走行に対する走行距離評価が、¥66,540となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と22ヶ月残っており、車検残22ヶ月となる。この車検残についての評価額は、¥154,000となり、少走行距離評価額、車検残評価額は、いずれも査定上プラス要因となる。

【0124】なお、図示していないが、この図34~図36の査定詳細情報の表示には、隠しボタンがあり、この隠しボタンを選定すると、調整額入力欄がディスプレイ85上に表示され、査定者による調整額の入力が可能となる。この調整額は、最終買取額(¥1,516,743)に取引上の上乗せをするために設けたもので、買取査定部署(支店)の査定者が、調整額を例えば、¥100,000と入力すると、最終買取額が10万円アップした¥1,616,743ということになる。この最終買取調整は買取査定部署(支店)だけで行われる。

【0125】また、各種減額、修理実費についての入力項目で内装関係の室内の状況についての減額(本実施例では、200,000円)が入力されていない状態でCPU80を駆動し、外装の現状入力、加修・補修歴の入力、外装関係の現状入力、内装の現状入力、電装品の現状入力、機関・足回りの現状入力、装備品の現状入力の全てのデータが買取査定部署(支店)から買取保証額決定部署(本部)に送信すると、各種減額、修理実費についての入力項目で内装関係の室内の状況についての減額が入力されていない状態で買取査定の演算を行うことになり、この場合は、確定買取り査定ではなく暫定買取り査定となる。暫定買取り査定が行われると、図38に示す如く暫定買取り査定額を表示する。この暫定買取り査定額の表示には、査定日付(例えば、平成9年2月17日)、暫定買取り査定額(¥1,716,743)が同時に表示される。この暫定買取り査定額(¥1,716,743)は、図33に示される確定買取り査定額(¥1,516,743)と¥200,000の差があるが、この差額は、各種減額、修理実費について内装関係の室内の状況について入力した減額分200,000円に相当するもので、暫定買取り査定の場合、この内装関係の室内の状況についての減額(200,000円)

を考慮しないため、この入力されない減額分だけ査定額が高くなる。

【0126】

【発明の効果】本願請求項1に記載の発明によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を買取保証額として簡単に査定することができる。

【0127】本願請求項2に記載の発明によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【0128】本願請求項3に記載の発明によれば、外装の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0129】本願請求項4に記載の発明によれば、内装の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0130】本願請求項5に記載の発明によれば、電装品の現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な確定買取査定価格を誰にでも簡単に算出することができる。

【0131】本願請求項6に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラーの買取査定価格に適正に反映させ、適正な買取査定価格を誰にでも算出することができる。

【0132】本願請求項7に記載の発明によれば、買取査定部署において現況加減算額が不明な場合であっても、現況加減算額を加味しないで買取査定を行うようなことがなく、現況加減算額をディーラーの買取査定価格に適正に反映させられ、適正な買取査定価格を容易に算出することができる。

【0133】本願請求項8に記載の発明によれば、軽度の修復歴、中度の修復歴の箇所多少によって重度の修復歴と同等の重み付けをすることができ、修復歴の軽重による中古車の良否の程度を中古車に適正に反映でき、中古車の適正な買取査定価格を算出することができる。

【0134】本願請求項9に記載の発明によれば、軽度の現状事故箇所、中度の現状事故箇所多少によって重度の現状事故車と同等の重み付けをすることができ、事故の軽重による中古車の良否の程度を中古車に適正に反映でき、中古車の適正な買取査定価格を算出するこ

とができる。

【0135】本願請求項10に記載の発明によれば、重度の修復歴の有る中古車、又は現状が重度の事故車であるような不良な車を誤って買取ることがないようにすることができる。

【0136】本願請求項11に記載の発明によれば、詳細な査定情報の入力が行われない場合に暫定的な買取査定を行うことができる。

【0137】本願請求項12に記載の発明によれば、二重に買取査定を繰り返すことなく、前回の査定内容を最終買取査定額とすることができる。

【0138】本願請求項13に記載の発明によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を買取保証額として簡単に査定することができる。

【0139】本願請求項14に記載の発明によれば、買取査定者に中古車の買取査定の経験のない場合であっても、買取査定対象車を特定するための基本データ、総合評価点、現走行距離データ、車検残存期間データ、内外装の現況・電装品の現況・機関・足回りの現況・装備品の現況データを把握できれば、当該買取査定対象車の買取査定額を適正かつ詳細な買取保証額として査定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図2】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図3】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図4】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図5】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図6】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図7】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図8】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図9】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図10】本発明に係る中古車の買取査定の処理方法の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図11】少走行の場合の顧客情報の入力と車種タイプの選択を表示した図である。

【図12】図11において選定した車種タイプのモデルの選択表示図である。

【図13】グレードを一覧表示した図である。

【図14】現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を表示する図である。

【図15】ボディカラーの一覧表示図である。

【図16】車両の状況入力の一覧表示図である。

【図17】図16の車両の状況入力に基づく確定買取り査定額を表示する図である。

【図18】簡易型の買取り査定における少走行の場合の買取り参考査定額を表示する図である。

【図19】多走行の場合の顧客情報の入力と車種タイプの選択を表示した図である。

【図20】図19の多走行の場合の確定買取り査定額を表示する図である。

【図21】簡易型の買取り査定における多走行の場合の買取り参考査定額を表示する図である。

【図22】詳細型の買取り査定における外装の現状入力を表示した図である。

【図23】修復歴の状況を入力するための図である。

【図24】現車の事故箇所の状況を入力するための図である。

【図25】加修・補修歴の状況を入力するための図である。

【図26】外装関係の現状を入力するための図である。

【図27】内装の現状を入力するための図である。

【図28】電装品の現状を入力するための図である。

【図29】機関・足回りの現状を入力するための図である。

【図30】装備品の現状を入力するための図である。

【図31】装備品の現状を入力するための図である。

【図32】各種減額、修理実費を入力するための図である。

【図33】詳細型の買取り査定における確定買取り査定額を表示した図である。

【図34】図33の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図35】図33の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図36】図33の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図37】各種減額、修理実費を入力するための図であ

る。

【図38】図33の図37に基づく暫定買取り査定額を表示した図である。

【図39】詳細型の買取り査定における現車に問題がない場合の確定買取り査定額を表示した図である。

【図40】図39の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図41】図39の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図42】図39の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図43】詳細型の買取り査定における多走行で現車に問題ありの場合の確定買取り査定額を表示する図である。

【図44】図43の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図45】図43の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

【図46】図43の確定買取り査定の査定詳細情報を表示した図である。

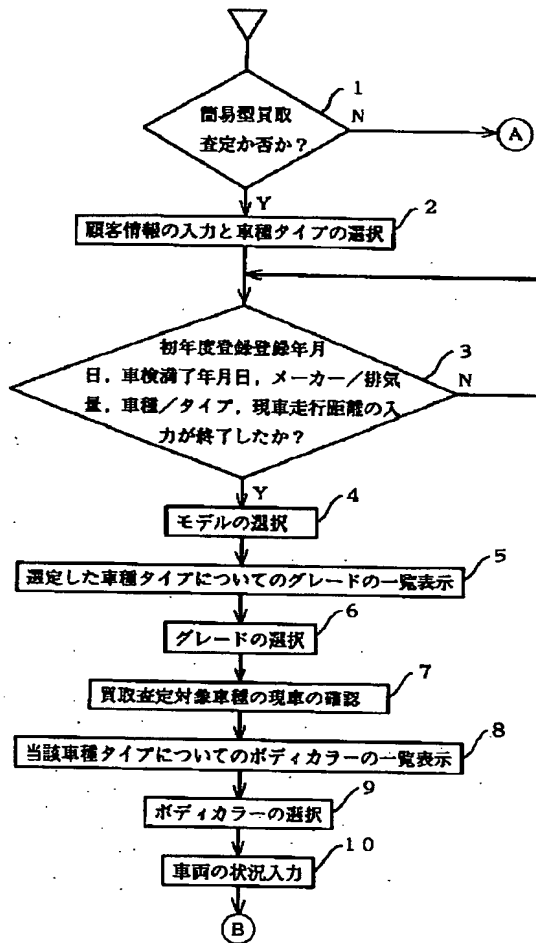
【図47】図43に基づく暫定買取り査定額を表示した図である。

【図48】本発明に係る中古車の買取査定の処理装置の実施の形態を示す基本ブロック図である。

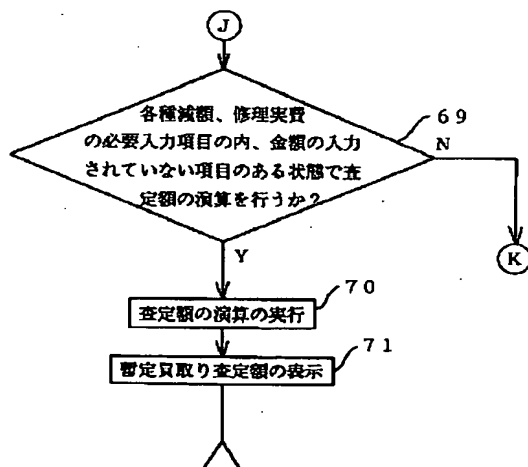
【符号の説明】

80.....CPU
 81.....ROM
 82.....RAM
 83.....I/O
 84.....入力装置
 85.....ディスプレイ
 86.....バスライン

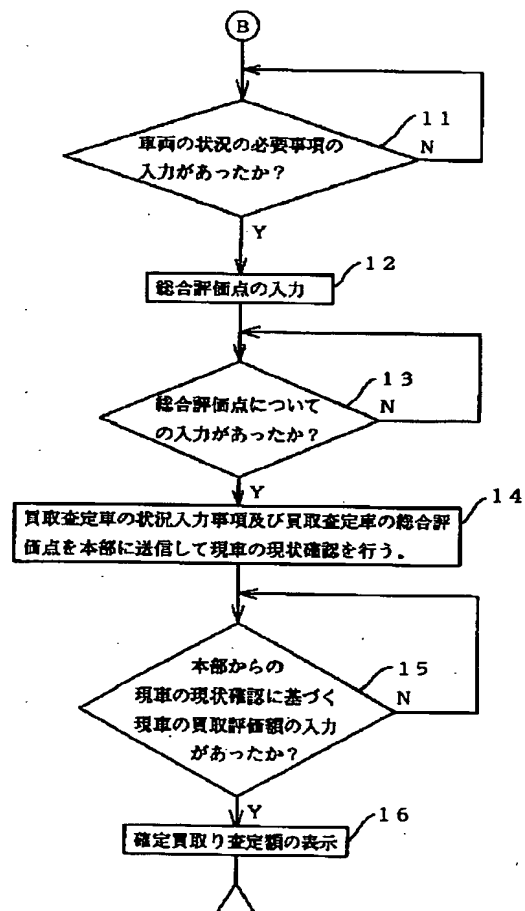
【図1】



【図10】



【図2】

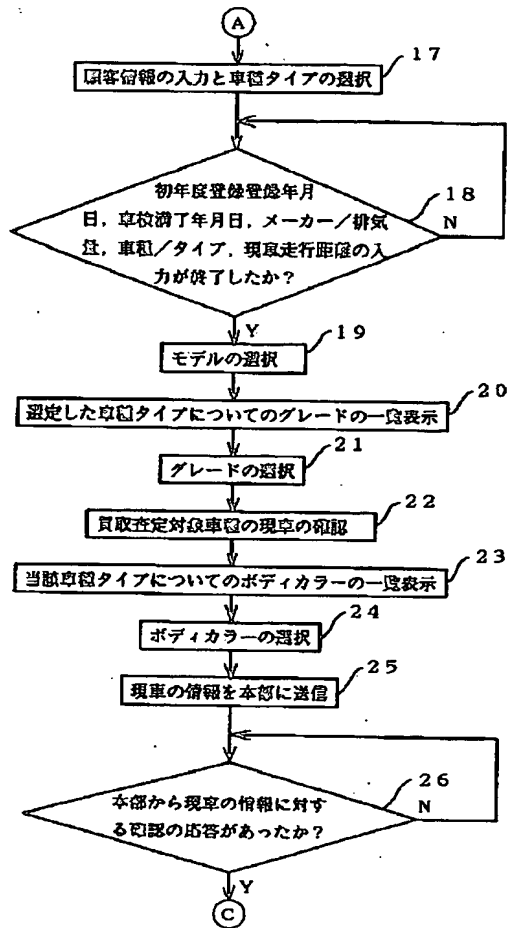


【図12】

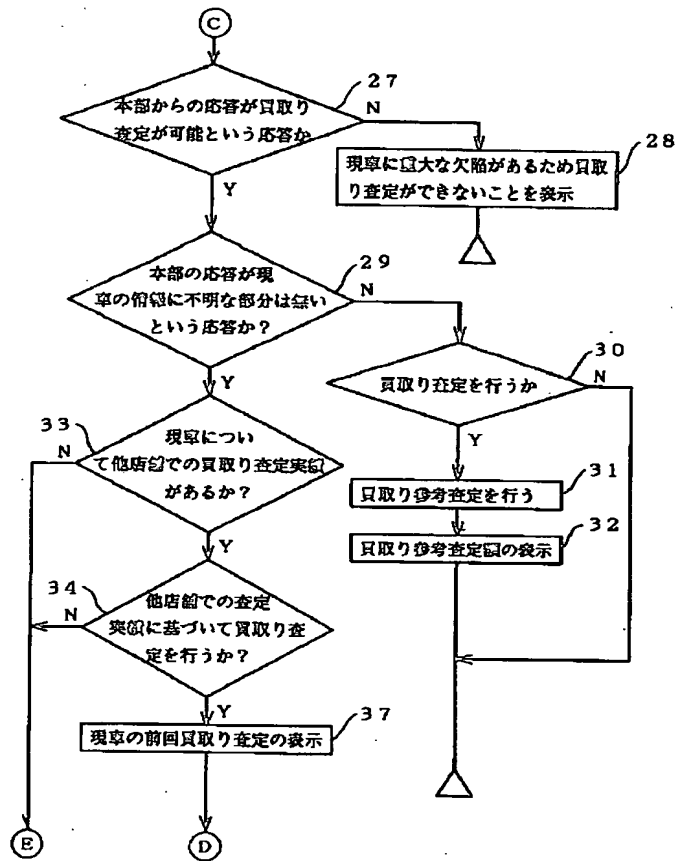
モデルの選択		
トヨタ	クラウン	セダン
発売期間		
<input type="checkbox"/>	平成 7年 12月 ~ 平成 7年 12月 フルモデルチェンジ	
<input type="checkbox"/>	平成 7年 1月 ~ 平成 7年 11月	

指定された車種は上記の通りモデルがチェンジされています。
旧モデルか新モデルかの選択をして下さい。

【図3】



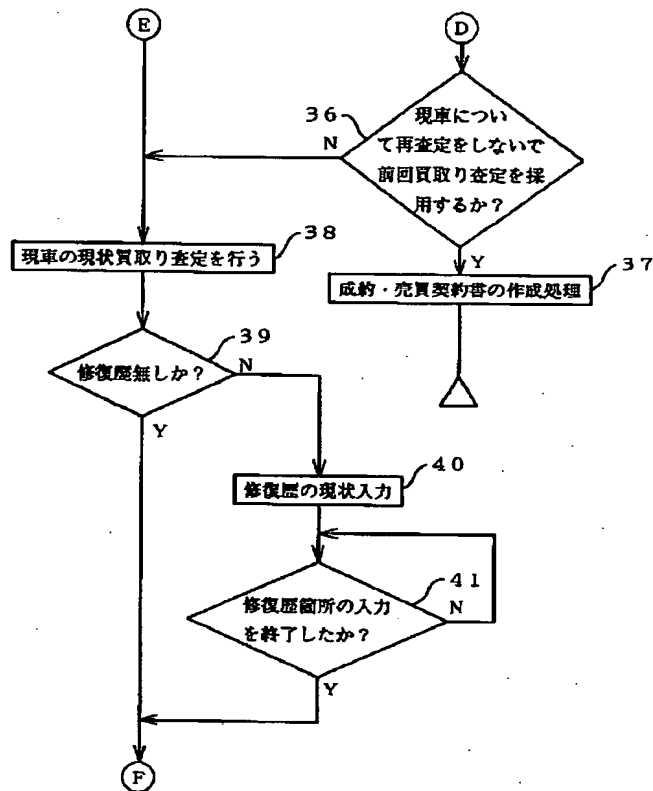
【図4】



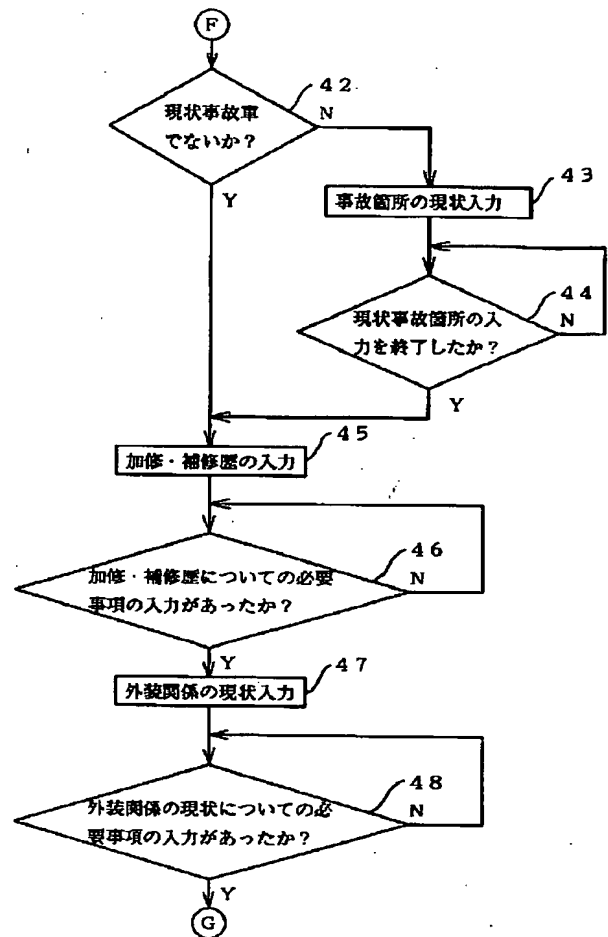
【図13】

グレードの選択						
トヨタ	クラウン	セダン	発売期間			
			7 年	1 月 ~	7 年	11 月
グレード	エンジン	駆動	ドア	定員		
	型 式	装置	過給器	屋根形状		
RサルーンG マルチV	3000 DOHC EFI	2WD	4ドア	5		
	E-JZS135		PS, PH			
RサルーンG	3000 DOHC EFI	2WD	4ドア	5		
	E-JZS135		PS, PH			
Rサルーン マルチV	3000 DOHC EFI	2WD	4ドア	5		
	E-JZS133		PS, PH			
Rサルーン	3000 DOHC EFI	2WD	4ドア	5		
	E-JZS133		PS, PH			

【図5】



【図6】



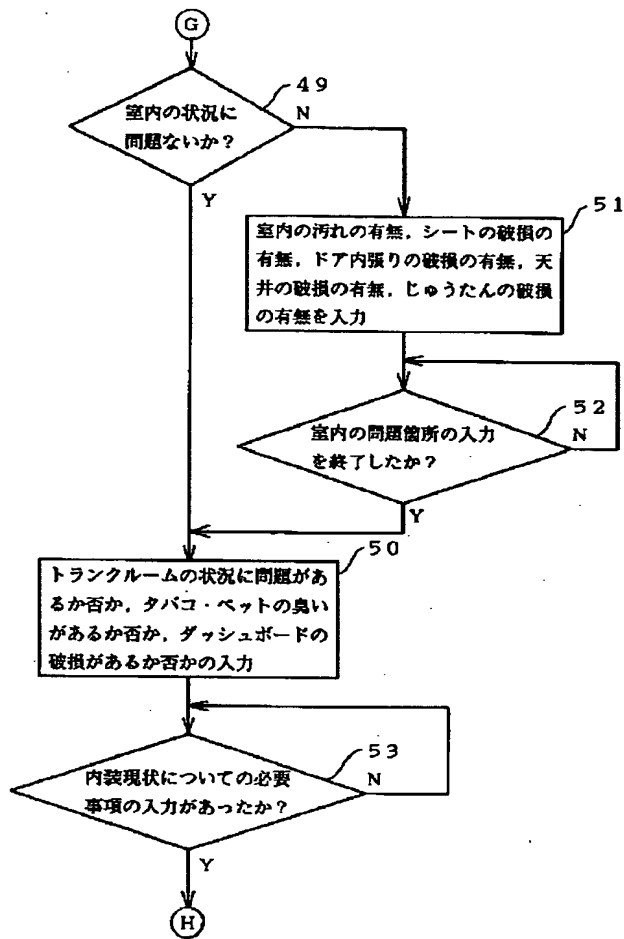
【図14】

現車の確認

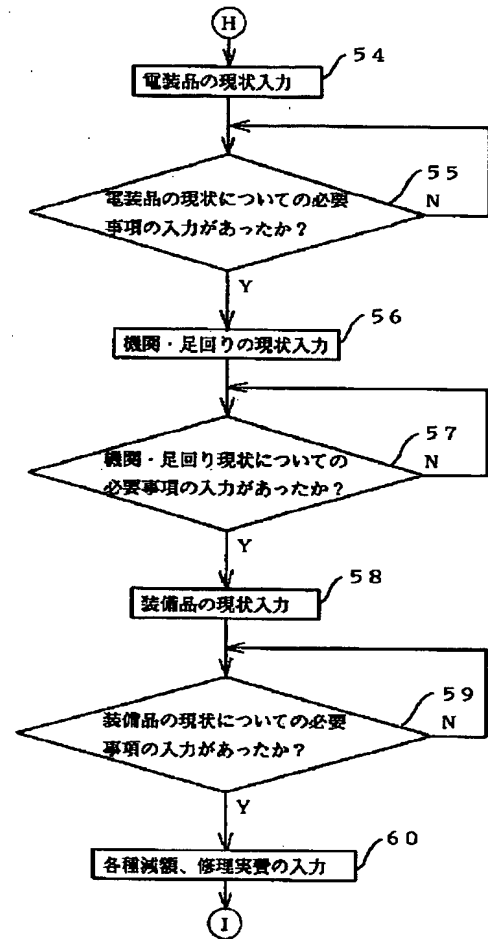
メーカー
 車 種 セダン
 発売期間 年 月 ~ 年 月

排気量	3000 CC	グレード	RサルーンG
エンジン種類	DOHC	型 式	E-JZS135
燃料供給装置	EFI	定 員	5 人
過 給 器		ミッション	4A フロア4速オートマチック
駆動装置	2WD	新車価格	4,030,000 円
ドア数	4ドア	類別区分	001,002
屋根形状			

【図7】



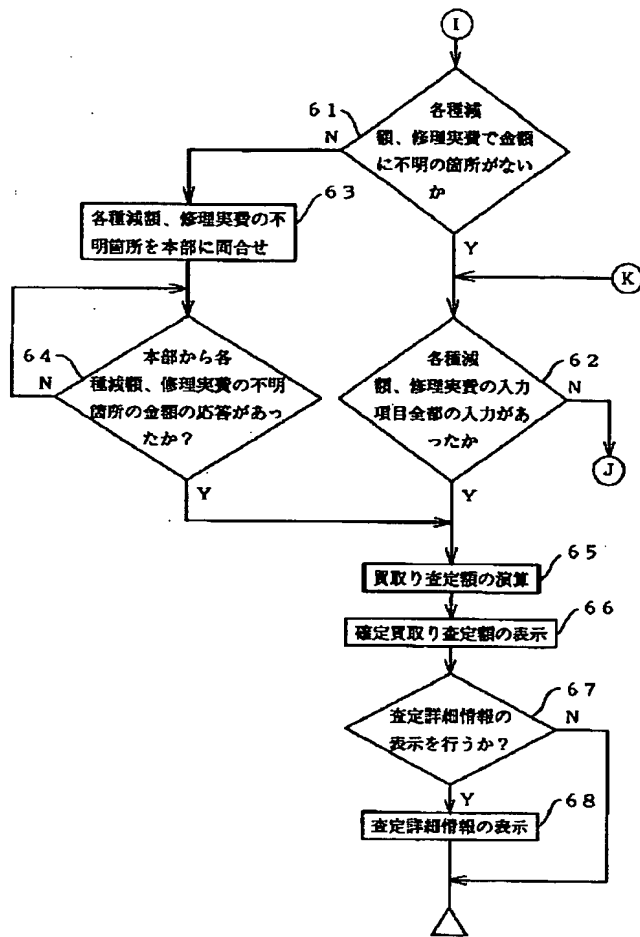
【図8】



【図15】

ボディカラーの選択		
トヨタ	クラウン	セダン
		発売期間
		7 年 1 月 ~ 7 年 11 月
正式色名称		イメージカラー
<input type="checkbox"/>	シルバーメタリック	シルバー
<input type="checkbox"/>	スーパーホワイトⅡ	ホワイト
<input type="checkbox"/>	ダークターコイズマイカ	ディーアブルー
<input type="checkbox"/>	ダークブルーイッシュグレーメタリック	ダークブルーメタリック
<input type="checkbox"/>	ダークブルーマイカフタロシアニン	ダークブルー
<input type="checkbox"/>	ブラック	ブラック

【図9】



【図29】

機関・足回りの現状入力

エンジン	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
ミッション	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
動力伝達装置	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
ステアリング	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
サスペンション	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
ブレーキ	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
マフラー	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難
その他の機関・足回り	<input checked="" type="radio"/> 通常に使用できる	<input type="radio"/> 通常の使用が困難

【図11】

顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧客名	日本 太郎 様 (ニホンタロウ)
顧客住所/電話	東京都港区広尾1-3-25 (03)3897-2465

初年度登録年月日	平成 7 年 12 月 8 日
登録番号	練馬 - 33 - 板 - 8304
車検満了年月日	平成 10 年 12 月 7 日
車台番号	88888
メーカー/排気量	トヨタ 3000 cc
車種/タイプ	クラウン セダン
ミッション	<input checked="" type="radio"/> オートマ <input type="radio"/> マニュアル
A/C有無	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し
S/R有無	<input type="radio"/> 有り <input checked="" type="radio"/> 無し
メーター状況	<input checked="" type="radio"/> 正常 <input type="radio"/> 交換歴有 <input type="radio"/> 交換歴無
現車走行距離	4396 Km

査定担当者	渡邉士 和正
-------	--------

【図16】

外装の現状入力

修復歴	<input checked="" type="radio"/> 修復歴無し <input type="radio"/> 修復歴有り
改造車	<input checked="" type="radio"/> 改造無し <input type="radio"/> ドレスアップ改造 <input type="radio"/> 違法改造
全塗装	<input checked="" type="radio"/> 全塗装の必要無し <input type="radio"/> 全塗装歴有り <input type="radio"/> 全塗装の必要有り
	<input type="radio"/> 元色全塗装 <input type="radio"/> 色替全塗装
現状事故車	<input checked="" type="radio"/> 事故車ではない <input type="radio"/> 事故車である

外装の現状入力の可否	<input type="radio"/> 入力しない <input type="radio"/> 入力する
内装の現状入力の可否	<input type="radio"/> 入力しない <input type="radio"/> 入力する
電装品の現状入力の可否	<input type="radio"/> 入力しない <input type="radio"/> 入力する
機関・足回りの現状入力の可否	<input type="radio"/> 入力しない <input type="radio"/> 入力する
装備品の現状入力の可否	<input type="radio"/> 入力しない <input type="radio"/> 入力する
総合評価点	3.5

【図17】

確定買取り査定額の表示	
顧客名	日本 太郎 様
メーカー	トヨタ
車種/タイプ	クラウン セダン
グレード	RサルーンG
排気量	3000 CC
ボディカラー	シルバーメタリック
初年度登録日	7 年 12 月 8 日
登録番号	徳島 - 33 - は - 8304
車台番号	88888
車検満了日	10 年 12 月 7 日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店 03-3487-8353
査定担当者	道祖土 和正
査定日付	9 年 2 月 17 日
確定下取り査定額	¥1,971,743

【図22】

外装の現状入力	
修復歴	<input checked="" type="radio"/> 修復歴無し <input type="radio"/> 修復歴有り
改造車	<input checked="" type="radio"/> 改造無し <input type="radio"/> ドレスアップ改造 <input type="radio"/> 違法改造
全塗装	<input checked="" type="radio"/> 全塗装の必要無し <input type="radio"/> 全塗装の必要有り
現状事故車	<input checked="" type="radio"/> 事故車ではない <input type="radio"/> 事故車である

【図27】

内装の現状入力	
室内の状況	<input type="radio"/> 問題なし <input checked="" type="radio"/> 問題あり
室内の汚れ	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有
シートの破損	<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有
ドア内張の破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
天井の破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
じゅうたんの破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
トランクルームの状況	<input checked="" type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり
タバコ・ペットの臭い	<input checked="" type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり
ダッシュボードの破損	<input checked="" type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり

【図28】

電装品の現状入力	
エアコン	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可
バッテリー	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
時計	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
パワーウィンドウ左前	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ左後	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右前	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右後	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
ワイパー関係	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
メーターパネル	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可

【図18】

参考買取査定額の表示	
顧客名	日本太郎 様
メーカー	トヨタ
車種/タイプ	クラウン セダン
グレード	RサルーンG
排気量	3000 CC
ボディカラー	シルバーメタリック
初年度登録日	7年12月8日
登録番号	岐阜 - 33 - ほ - 8304
車台番号	88888
点検完了日	10年12月7日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店 03-3487-8353
査定担当者	道祖土 和正
査定日付	9年2月17日
参考買取査定額	¥1,971,743

【図30】

装備品の現状入力	
ステレオ・コンボ・CD	テレビ
<input type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 無し	<input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ナビゲーション	空気清浄機
<input type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 無し	<input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
アルミホイール	スポイラー
<input type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 無し	<input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可

【図23】

修復歴の現状入力	
右前	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
右後	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
左前	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
左後	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
前面	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
後面	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
フロアパネル	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
トランクフロア	<input type="radio"/> OK <input type="radio"/> OK程度 <input type="radio"/> 中度 <input type="radio"/> 重度
フレーム&サスペンションの交換、修正	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
事故の痕の有無（腐蝕状態が不明瞭）	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
フレーム修正機の痕跡の有無	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし

【図19】

顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧客名 日本 太郎 様 (ニホンタロウ)
 顧客住所/電話 東京都港区広尾1-3-25 (03)3897-2465

初年度登録年月日 平成 7 年 12 月 8 日

登録番号 練馬 - 33 - 12 - 8304

車検満了年月日 平成 10 年 12 月 7 日

車台番号 88888

メーカー/排気量 トヨタ 3000 cc

車種/タイプ クラウン セダン

ミッション ①オートマ ②マニュアル

A/C有無 ①有り ②無し

S/R有無 ①有り ②無し

メーカー状況 ①正常 ②交換歴有 ③交換歴無

現車走行距離 13467 Km

査定担当者 道祖土 和正

【図31】

エアバック

○標準 ①使用可能
 ○OP-A
 ○OP-B
 ○OP-C
 ②無し ③使用不可

A B S

○標準 ①使用可能
 ○OP-A
 ○OP-B
 ○OP-C
 ②無し ③使用不可

4 W S

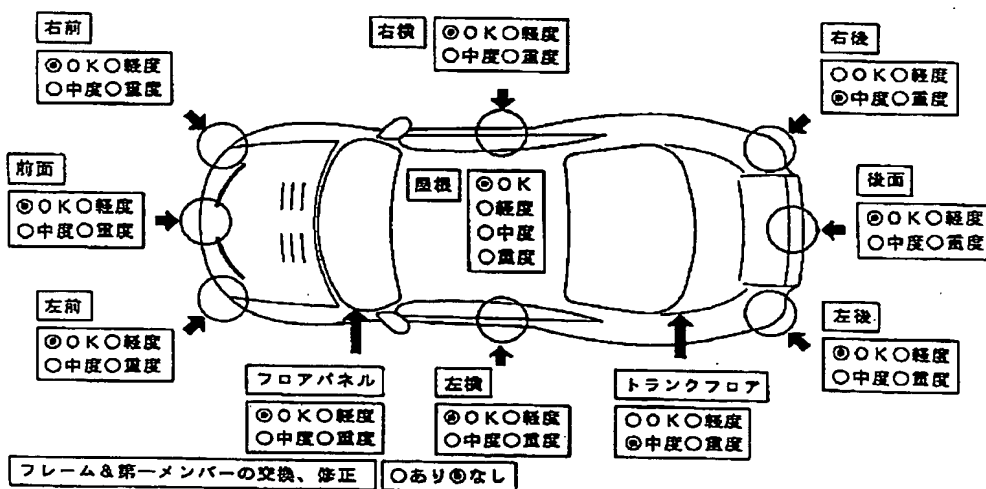
○標準 ①使用可能
 ○OP-A
 ○OP-B
 ○OP-C
 ②無し ③使用不可

工具、ジャッキ

① 使用可能
 ② 使用不可

【図24】

事故箇所の現状入力



【図20】

確定買取り査定額の表示		
顧客名	日本 太郎 様	
メーカー	トヨタ	
車種/タイプ	クラウン	セダン
グレード	RサルーンG	
排気量	3000 CC	
ボディカラー	シルバーメタリック	
初年度登録日	7 年 12 月 8 日	
登録番号	岐阜 - 33 - ぽ - 8304	
車台番号	88888	
車検終了日	10 年 12 月 7 日	
査定拠点名/TEL	ナイス・センター渋谷店 03-3487-8353	
査定担当者	瀬根土 和正	
査定日付	9 年 2 月 17 日	
確定下取り査定額	¥1,871,743	

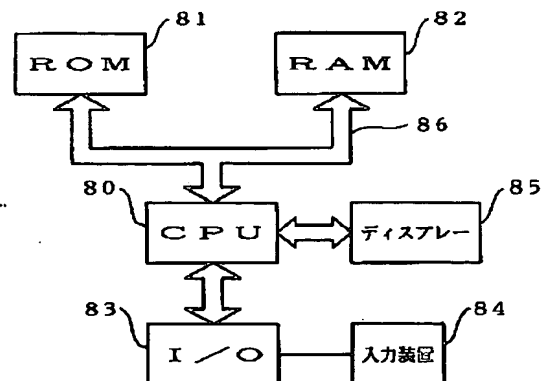
【図35】

電 装	エ ア コ ン	0
	バ ッ テ リ	0
	時 計	0
	パワーウィンドウ	0
	ワイパー関係	0
	メーターパネル	0
編 組 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	0
	ミッションの修理等	0
	動力伝達装置の修理等	0
	ステアリングの修理等	0
	サスペンションの交換	0
	ブレーキの修理等	0
	マフラーの修理等	0
	その他の編組の修理等	0

【図26】

外装関係の現状入力		
バンパー	ド ア	ステップ
フロント	左 前	左
リア	左 後	右
フェンダー	右 前	ボンネット
左 前	右 後	C
左 後	後 部	ルーフ
右 前	ミラー	トランクの窓
右 後	左	A
エプロン	右	トランクの床
フロント	右	C
リア	左	インナーパネル左
	右	インナーパネル右
		ラジエーターセル
タイヤ	ガラスの交換	
左 前	①使用可 ②不可	フロント ①不要 ②必要
左 後	①使用可 ②不可	左前ドア ①不要 ②必要
右 前	①使用可 ②不可	左後ドア ①不要 ②必要
右 後	①使用可 ②不可	右前ドア ①不要 ②必要
スベア	①有り ②無し	右後ドア ①不要 ②必要
		リア ①不要 ②必要
ヘッドランプ	①OK ②球交換要 ③交換要	
テール・コンビランプ	①OK ②球交換要 ③交換要	

【図48】



【図21】

参考買取査定額の表示

顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000 CC		
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7 年	12 月	8 日
登録番号	続局 - 33 - ね - 8304		
車台番号	88888		
車検満了日	10 年	12 月	7 日
査定拠点名/TEL	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353	
査定担当者	道祖土 和正		
査定日付	9 年	2 月	17 日
確定下取り査定額	¥1,871,743		

【図41】

電 装	エ ア コ ン	0
	バ ッ テ リ	0
	時 計	0
	パ ワー ウィンドウ	0
	ワイパー関係	0
	メーターパネル	0
機 関 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	0
	ミッションの修理等	0
	動力伝達装置の修理等	0
	ステアリングの修理等	0
	サスペンションの交換	0
	ブレーキの修理等	0
	マフラーの修理等	0
	その他の機関の修理等	0

【図32】

各種減額、修理実費の入力

外 装 関 係	電 装 品		
重度の修復歴有り	円	メーターパネル	円
違法改造車	円		
重度の現状事故車	円	装 備 品	
		ステレオ	円
内 装 関 係		テレビ	円
室内の状況	200000 円	ナビゲーション	円
ドアパネルの破損	円	空気清浄機	円
室内の臭い	円	アルミホイール	円
ガラスの破損	円	スポイラー	円
		エアバック	円
機関・足回り	円	4 W S	円
エンジン	円	A B S	円
ミッション	円		
動力伝達装置	円	電 装 品	
ステアリング	円	メーターパネル	円
サスペンション	円		
ブレーキ	円		
マフラー	円		
他機関・足回り	円		

【図25】

加修・補修歴の入力		
バンパー	ド ア	ステップ
フロント	左 前	左
リ ア	左 後	右
フェンダー	右 前	ボンネット
左 前	右 後	ルーフ
左 後	後 部	トランクの蓋
右 前	ミラー	トランクの床
右 後	左	インナーパネル左
エアロン	右	インナーパネル右
フロント	電動ミラー	ラジエータセル
リ ア	左	
	右	
ルームクリーニング	●済み ○まだ	
シートの補修痕	●無し ○有り	
ドア内張りの補修痕	●無し ○有り	
天井の補修痕	●無し ○有り	
じゅうたんの補修痕	●無し ○有り	

【図45】

電 装		
エ ア コ ン		0
バ ッ テ リ		0
時 計		0
パワーウィンドウ		0
ワイパー関係		0
メーターパネル		0

機 関 ・ 足 回 り		
エンジンの修理等		0
ミッションの修理等		0
動力伝達装置の修理等		0
ステアリングの修理等		0
サスペンションの交換		0
ブレーキの修理等		0
マフラーの修理等		0
その他の機関の修理等		0

【図34】

査定詳細情報の表示				
外 装	バンパー	-50,000	タ イ ヤ	-8,000
	フェンダー	-50,000	ガラス	-80,000
	エアロン	-20,000	インナーパネル	0
	ド ア	0	ラジエータセル	0
	ミラー	0	ヘッドランプ	0
	電動ミラー	0	テールコンビランプ	-20,000
	ステップ	0	修復歴有り	-60,000
	ボンネット	-20,000	改 造 車	0
	ルーフ	0	全盤装束	0
	トランク	-30,000	現状車故障	-25,000
内 装	室内の状況	-200,000		
	トランクルームの破損等	0		
	室内の臭い	0		
	ダッシュボード	0		

【図40】

査定詳細情報の表示				
外 装	バンパー	0	タ イ ヤ	0
	フェンダー	0	ガラス	0
	エアロン	0	インナーパネル	0
	ド ア	0	ラジエータセル	0
	ミラー	0	ヘッドランプ	0
	電動ミラー	0	テールコンビランプ	0
	ステップ	0	修復歴有り	0
	ボンネット	0	改 造 車	0
	ルーフ	0	全盤装束	0
	トランク	0	現状車故障	0
内 装	室内の状況	0		
	トランクルームの破損等	0		
	室内の臭い	0		
	ダッシュボード	0		

【図33】

確定買取り査定額の表示			
顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000	CC	
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7	年	12月8日
登録番号	練馬	-	33-ほ-8304
車台番号	88888		
車検満了日	10	年	12月7日
査定拠点名/TEL	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353	
査定担当者	道祖土 和正		
査定日付	9	年	2月17日
確定下取り査定額	¥1,516,743		

【図36】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0
	テレビ	0
	ナビゲーション	0
	空気清浄機	0
	アルミホイール	0
	スポイラー	0
	エアバック	0
	4WS	0
	ABS	0
	工具、ジャッキ	0
現車走行距離		4,396 Km
基準走行距離		11,050 Km
6,654 Km		少走行です
走行距離評価		¥66,540
車検残	22ヶ月残	154,000
最終買取額		¥1,516,743

【図37】

各種減額、修理実費の入力	
外装関係	電装品
重度の修復歴有り	円
違法改造車	円
重度の現状事故車	円
内装関係	装備品
室内の状況	円
ドアパネルの破損	円
室内の臭い	円
ガラスの破損	円
機関・足回り	円
エンジン	円
ミッション	円
動力伝達装置	円
ステアリング	円
サスペンション	円
ブレーキ	円
マフラー	円
他機関・足回り	円

【図38】

暫定買取査定額の表示	
顧客名	日本 太郎 様
メーカー	トヨタ
車種/タイプ	クラウン セダン
グレード	RサルーンG
排気量	3000 CC
ボディカラー	シルバーメタリック
初年度登録日	7 年 12 月 8 日
登録番号	群馬 - 33 - ほ - 8304
車台番号	88888
車検満了日	10 年 12 月 7 日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店 03-3487-8353
査定担当者	道祖土 和正
査定日付	9 年 2 月 17 日
暫定下取り査定額	¥1,716,743

【図39】

確定買取り査定額の表示			
顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000	cc	
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7	年	12月8日
登録番号	練馬 - 33 - 12 - 8304		
車台番号	88888		
車検満了日	10	年	12月7日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店 03-3487-8353		
査定担当者	道祖土 和正		
査定日付	9	年	2月17日
確定下取り査定額	¥1,871,385		

【図42】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0															
	テレビ	0															
	ナビゲーション	0															
	空気清浄機	0															
	アルミホイール	0															
	スポイラー	0															
	エアバック	0															
	4WS	0															
	ABS	0															
	工具、ジャッキ	0															
<table border="1"> <tr> <td>現車走行距離</td> <td>13,467</td> <td>Km</td> </tr> <tr> <td>基準走行距離</td> <td>11,050</td> <td>Km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,417</td> <td>Km</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">多走行です</td> </tr> <tr> <td>走行距離評価</td> <td colspan="2">-33,838</td> </tr> </table>			現車走行距離	13,467	Km	基準走行距離	11,050	Km		2,417	Km		多走行です		走行距離評価	-33,838	
現車走行距離	13,467	Km															
基準走行距離	11,050	Km															
	2,417	Km															
	多走行です																
走行距離評価	-33,838																
車検残	22	ヶ月残	154,000														
最終買取額	¥1,871,385																

【図43】

確定買取査定額の表示			
顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000	CC	
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7	年	12月8日
登録番号	練馬	-	33-43-8304
車台番号	88888		
車検満了日	10	年	12月7日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353	
査定担当者	塩垣士 和正		
査定日付	9	年	2月17日
確定下取り査定額	¥1,416,365		

【図46】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0
	テレビ	0
	ナビゲーション	0
	空気清浄機	0
	アルミホイール	0
	スポイラー	0
	エアバック	0
	4WS	0
	ABS	0
	工具、ジャッキ	0

現車走行距離	13,467	Km
基準走行距離	11,050	Km
	2,417	Km
	多走行です	
走行距離評価	-¥33,383	

車検残	22	ヶ月残	154,000
最終買取額	¥1,416,365		

【図44】

査定詳細情報の表示

外

バンパー	-50,000	タイヤ	0
フェンダー	-50,000	ガラス	0
エアロン	-20,000	インナーパネル	0
ドア	0	ラジエータセル	0
ミラー	0	ヘッドランプ	0
電動ミラー	0	ナビ・ナビゲ	0
ステップ	0	修復歴有り	-60,000
ボンネット	-20,000	改造車	0
ルーフ	0	全塗装要	0
トランク	-30,000	現状事故車	-25,000

装

内

装

室内の状況	-200,000
トランクルームの破損等	0
室内の臭い	0
ダッシュボード	0

【図47】

暫定買取り査定額の表示

顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000	CC	
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7	年	12月8日
登録番号	練馬	-	33-13-8304
車台番号	88888		
車検満了日	10	年	12月7日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353	
査定担当者	道祖土 和正		
査定日付	9	年	2月17日
暫定下取り査定額	¥1,716,743		